第２章　調査結果

令和５年度に三重県内で発生した産業廃棄物の発生及び処理状況の概要は、以下のとおりである。

第１節　結果の概要

令和５年度の１年間に三重県内で生じた産業廃棄物等の発生量は 6,890 千トンであり、有償物量の 379 千トン(発生量の 5.5%)を除いた産業廃棄物の排出量は 6,511 千トン(94.5%)となっている。

排出量のうち、脱水や焼却など中間処理された量は 6,399 千トン(排出量の 98.3%)、中間処理を経ず直接再生利用された量は 58 千トン(0.9%)、直接最終処分された量は 53 千トン(0.8%)等となっている。一方、中間処理による減量化量は 3,921 千トン(56.9%)で、再生利用量は 2,367 千トン(36.4%)、最終処分量は 222 千トン(3.4%)となっている。

これらを発生量ベースで捉えると、再生利用された量は 2,367 千トン、有償物量が 379 千トンで合わせた資源化量は 2,746 千トン(発生量の 39.9%)である。結果的に 222 千トン(3.2%)が最終処分されている。なお、事業場内での保管等その他量は、未処理及び中間処理後を合わせて１千トン未満(0.0%)となっている。

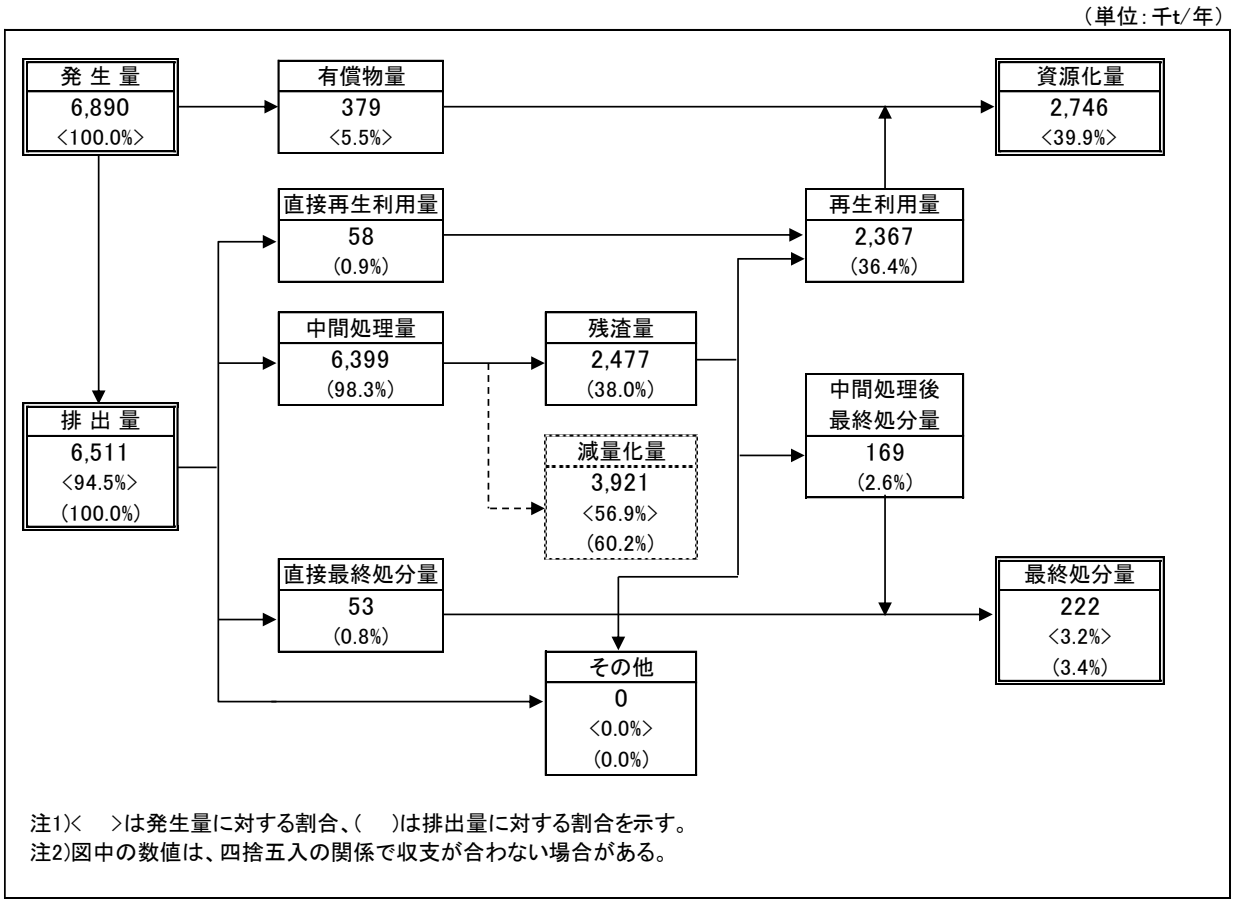


図 2-1-1　発生及び処理状況の概要

第２節　排出・搬出状況

１．種類別の排出状況

業種別の排出・搬出状況は、図 2-2-1～3 に示すとおりである。

排出量(6,511 千トン)を種類別にみると、汚泥が 4,032 千トン（61.9%）で最も多く、次いで、がれき類 1,278 千トン（19.6%）となっている。

搬出量(2,723 千トン)を種類別にみると、がれき類 1,269 千トン（46.6%）で最も多く、次いで、汚泥が 470 千トン（17.3%）、ガラスくず等が 167 千トン（6.1%）、木くずが 160 千トン(5.9%)、廃プラスチック類が 154 千トン(5.7%)、廃アルカリが 96 千トン（3.5%）等となっており、これら 6 種類で搬出量の 85.1%を占めている。

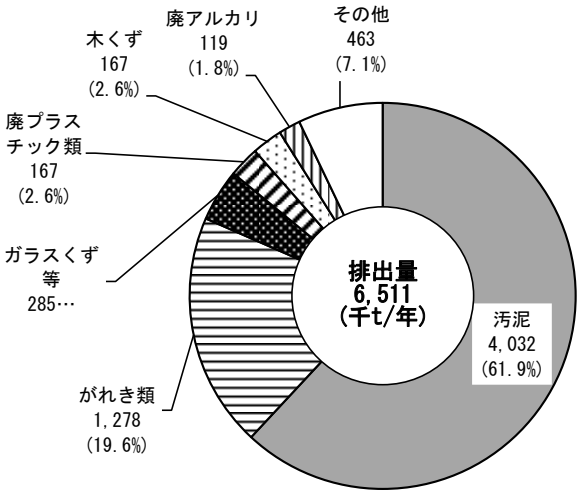


図 2-2-1 種類別の排出量

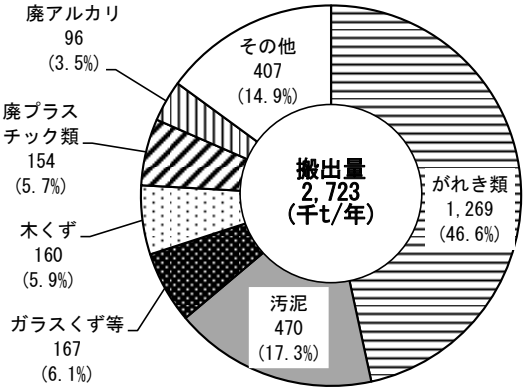
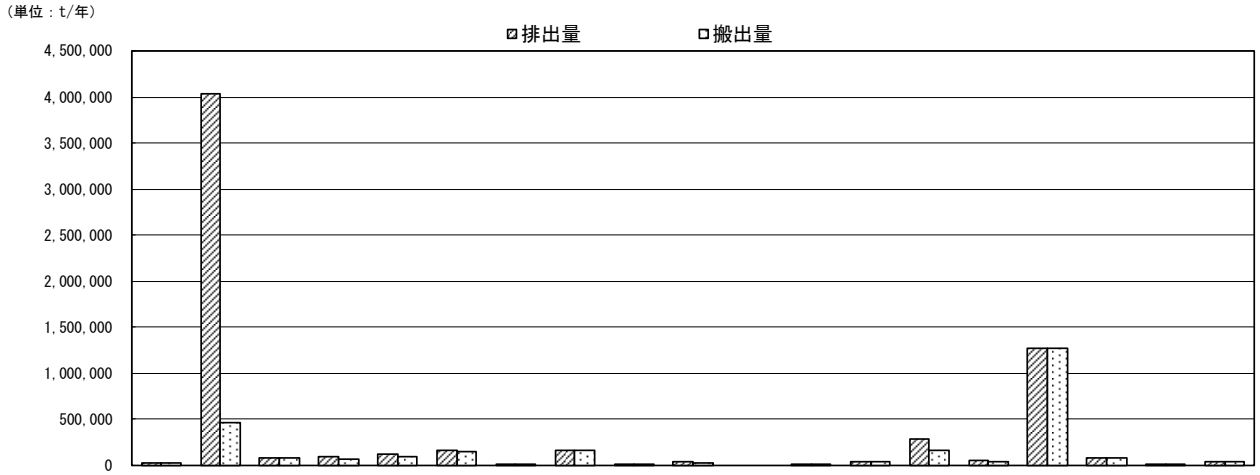


図 2-2-2 種類別の搬出量



種類:変換 (千t/年)	合計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ｶﾞﾗｽ陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	水銀廃業物	その他産業廃棄物
排出量	6,511 (100%)	23 (0.4%)	4,032 (61.9%)	82 (1.3%)	95 (1.5%)	119 (1.8%)	167 (2.6%)	4 (0.1%)	167 (2.6%)	2 (0.0%)	41 (0.6%)		5 (0.1%)	38 (0.6%)	285 (4.4%)	49 (0.7%)	1,278 (19.6%)	81 (1.3%)	0 (0.0%)	44 (0.7%)
搬出量	2,723 (100%)	25 (0.9%)	470 (17.3%)	77 (2.8%)	63 (2.3%)	96 (3.5%)	154 (5.7%)	4 (0.1%)	160 (5.9%)	2 (0.1%)	29 (1.0%)		5 (0.2%)	37 (1.3%)	167 (6.1%)	41 (1.5%)	1,269 (46.6%)	81 (3.0%)	0 (0.0%)	44 (1.6%)

図 2-2-3　種類別の排出量、搬出量

２．業種別の排出・搬出状況

業種別の排出・搬出状況は、図 2-2-4～6 に示すとおりである。

排出量(6,511 千トン)を業種別にみると、製造業が 3,600 千トン(55.3%)で最も多く、次いで、建設業が 1,561 千トン（24.0%)、電気・水道業が 1,055 千トン（16.2%）を占めており、この 3 業種で全排出量の約 95.5%になっている。

搬出量(2,723 千トン)を業種別にみると、建設業が 1,551 千トン(56.9%)で最も多く、次いで製造業が 952 千トン(35.0%)、電気・水道業が 101 千トン(3.7%）等となっており、これら 3 業種で搬出量の 95.6%を占めている。

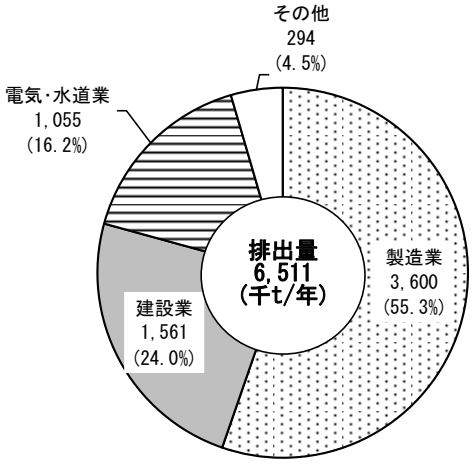


図 2-2-4 業種別の排出量

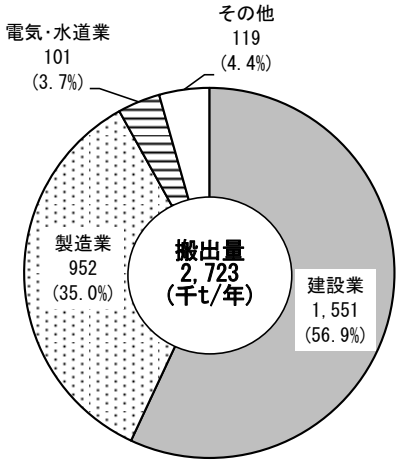
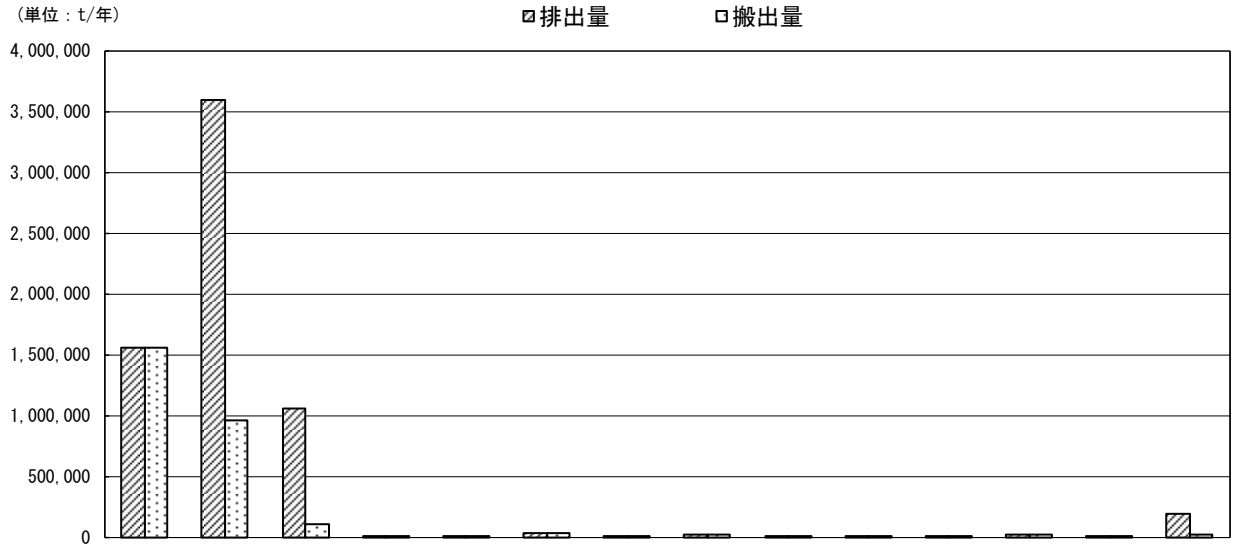


図 2-2-5 業種別の搬出量



業種 (千t/年)	合計	建設業	製造業	電気･水道業	情報通信業	運輸業	卸･小売業	物品賃貸業	学術･開発	宿泊･飲食	生活関連業	教育･学習支援	医療･福祉	複合サービス業	サービス業
排出量	6,511 (100%)	1,561 (24.0%)	3,600 (55.3%)	1,055 (16.2%)	0 (0.0%)	8 (0.1%)	25 (0.4%)	5 (0.1%)	20 (0.3%)	9 (0.1%)	6 (0.1%)	6 (0.1%)	24 (0.4%)	0 (0.0%)	189 (2.9%)
搬出量	2,723 (100%)	1,551 (56.9%)	952 (35.0%)	101 (3.7%)	0 (0.0%)	7 (0.2%)	25 (0.9%)	5 (0.2%)	20 (0.7%)	9 (0.3%)	6 (0.2%)	6 (0.2%)	24 (0.9%)	0 (0.0%)	16 (0.6%)

図 2-2-6　業種別の排出量、搬出量

３．地域の排出状況

地域別の排出・搬出状況は、図 2-2-7～9 に示すとおりである。

排出量(6,511 千トン)を地域別にみると、四日市地域が 2,548 千トン(39.1%)で最も多く、次いで、伊賀地域が 689 千トン（10.6%)、桑名・員弁地域が 662 千トン（10.2%)、熊野地域が 586 千トン（9.0%)、鈴鹿・亀山地域が 583 千トン（9.0%）となっており、以下は、津地域、伊勢志摩地域、松阪地域、尾鷲地域の順となっている。

搬出量(2,723 千トン)を地域別にみると、四日市地域が 903 千トン（33.1%）で最も多く、次いで桑名・員弁地域が 356 千トン(13.1%)、鈴鹿・亀山地域が 326 千トン(11.9%)、となっており、以下は、津地域、松阪地域、伊勢志摩地域、伊賀地域、熊野地域、尾鷲地域となっている。

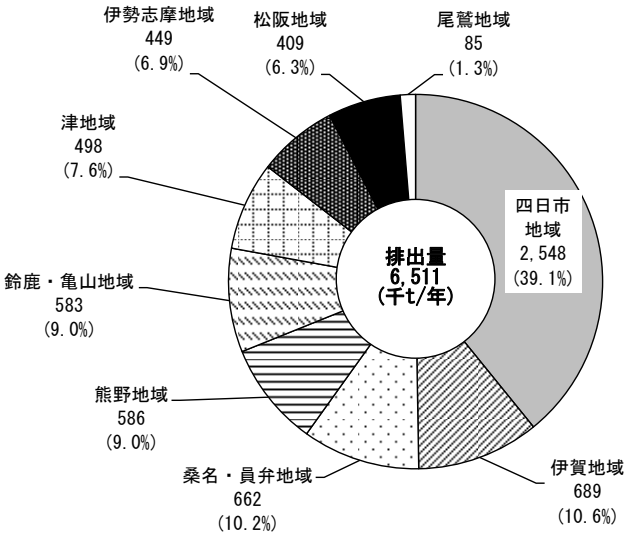


図 2-2-7 地域別の排出量

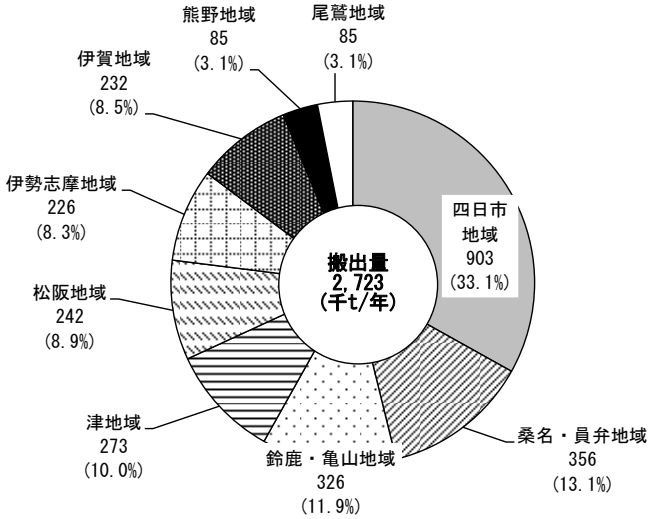
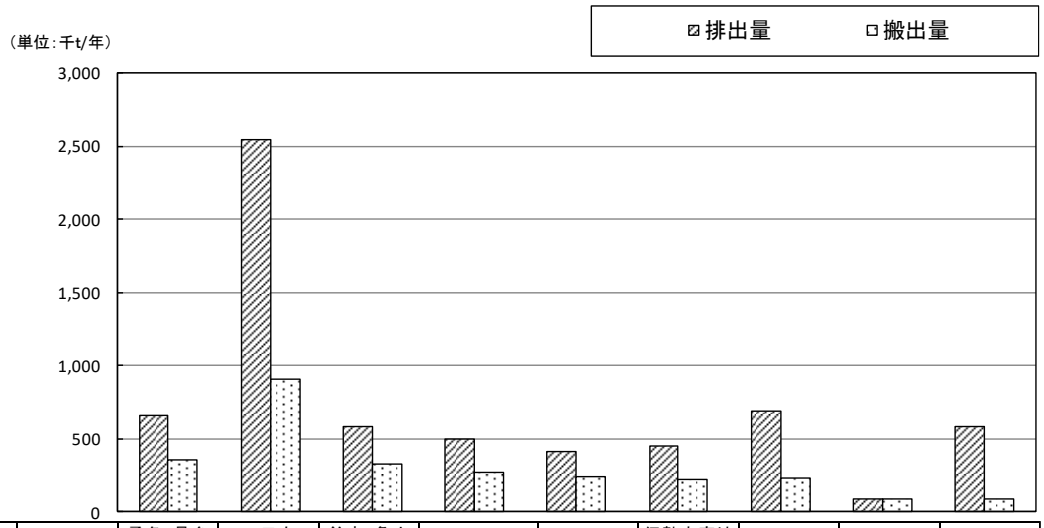


図 2-2-8 地域別の搬出量



地域（千t/年）	合計	桑名・員弁地域	四日市地域	鈴鹿・亀山地域	津地域	松阪地域	伊勢志摩地域	伊賀地域	尾鷲地域	熊野地域
排出量	6,511 (100%)	662 (10.2%)	2,548 (39.1%)	583 (9.0%)	498 (7.6%)	409 (6.3%)	449 (6.9%)	689 (10.6%)	85 (1.3%)	586 (9.0%)
搬出量	2,723 (100%)	356 (13.1%)	903 (33.2%)	326 (12.0%)	273 (10.0%)	242 (8.9%)	226 (8.3%)	232 (8.5%)	85 (3.1%)	85 (3.1%)

図 2-2-9　地域別の排出量、搬出量

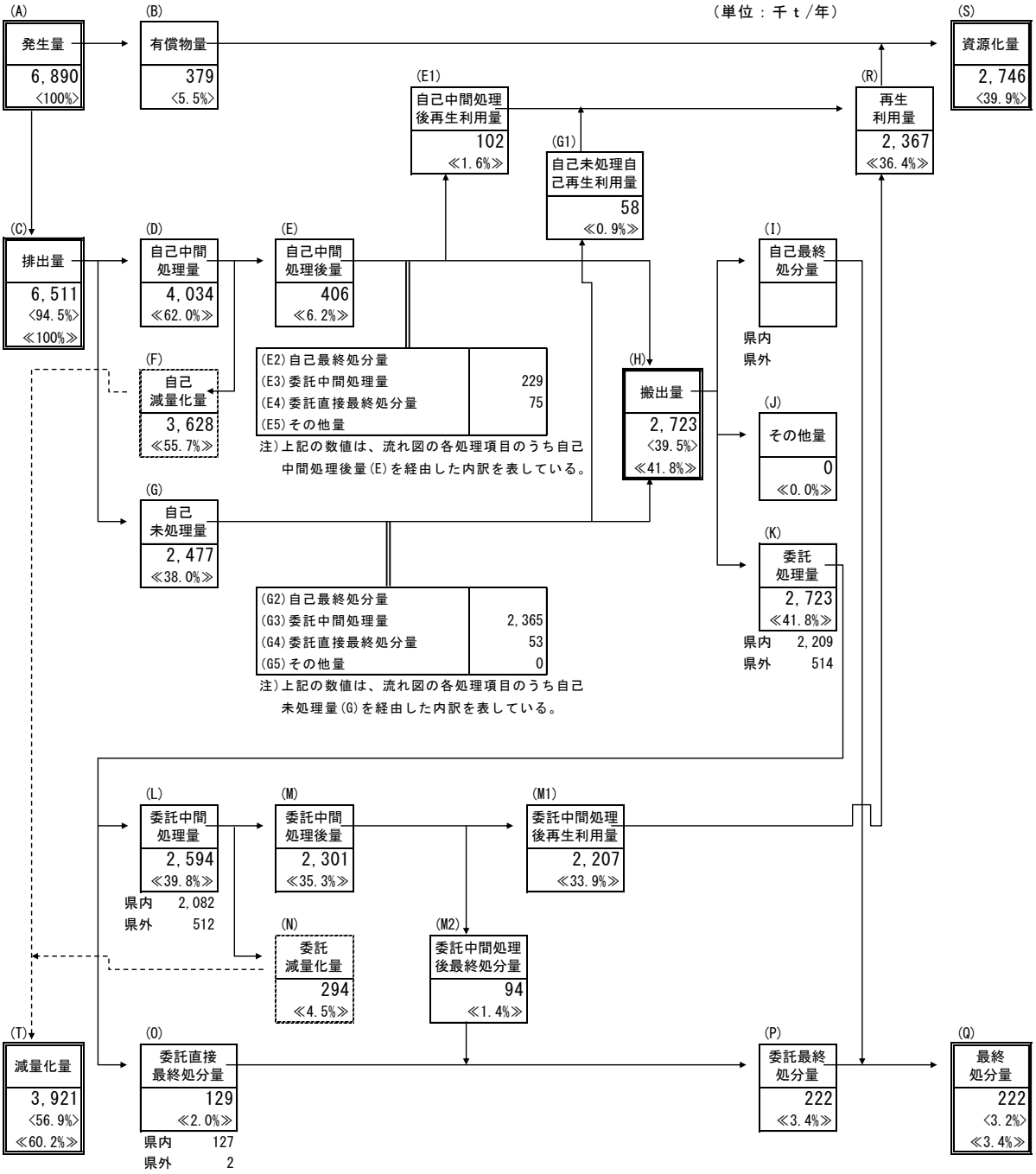
第３節　処理状況

１．発生から処理・処分までの流れ

発生から最終処分までの産業廃棄物の流れは、図 2-3-1 に示すとおりである。

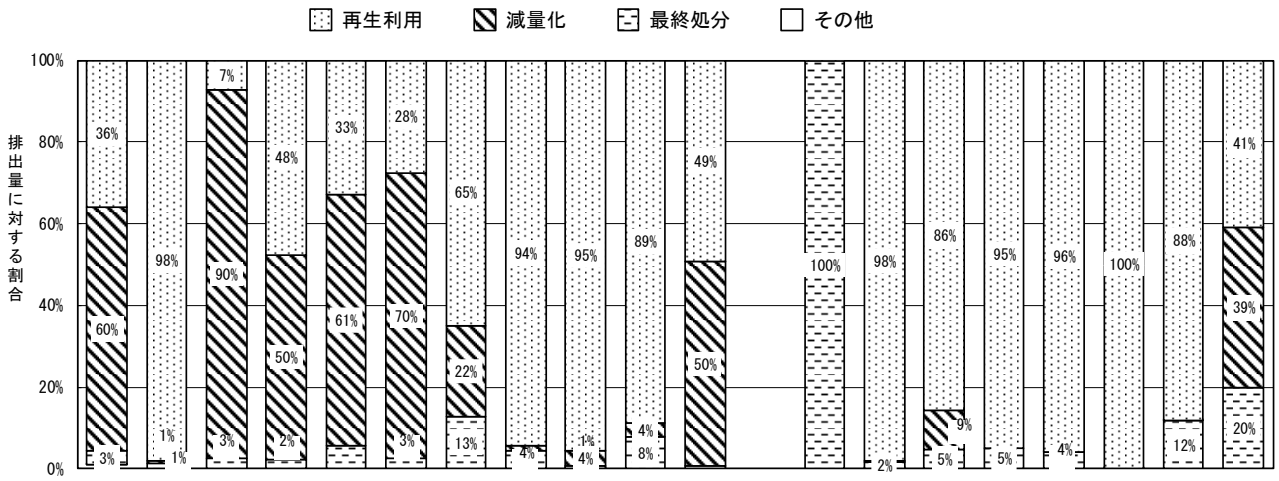
令和５年度の処理・処分状況を概要でみると、排出量 6,511 千トンのうち、再生利用量は 2,367 千トン（排出量の 36.4%）、中間処理による減量化量は 3,921 千トン(60.2%)、最終処分量は 222 千トン（3.4%）、その他量は１千トン未満となっている。

一方、排出量に対する再生利用量、減量化量、最終処分量の割合を種類別、業種別にみると、図 2-3-3、4 に示すとおりである。



注)＜　＞内の数値は発生量に対する割合を、≪　≫内の数値は排出量に対する割合を示している。

図 2-3-1　発生から処理・処分までの流れ

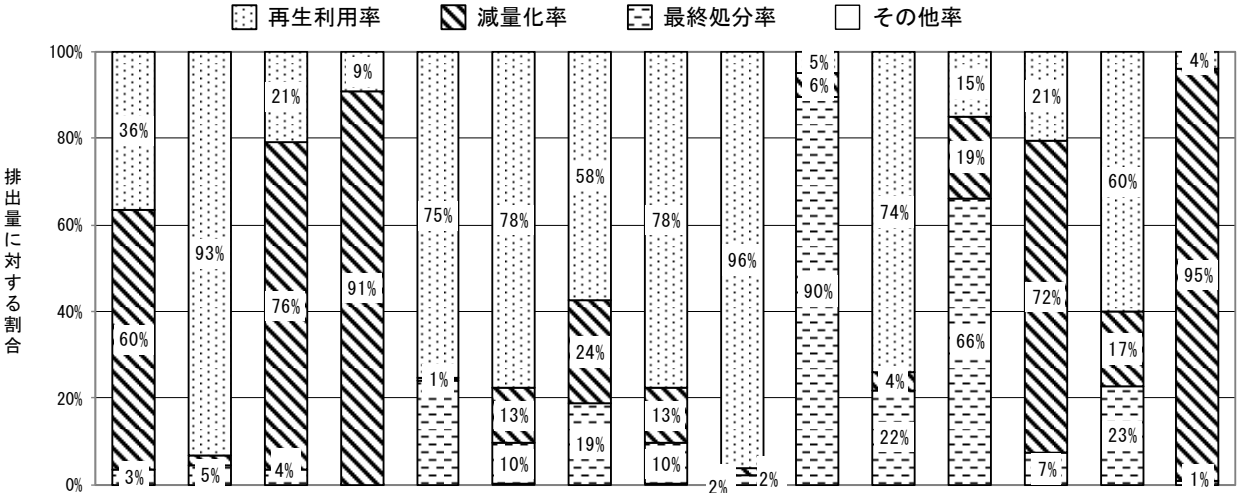


種類:無変換（千t/年）	合計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ｶﾞﾗｽ陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	水銀廃棄物	その他産業廃棄物
排　出　量	6,511	23	4,032	82	95	119	167	4	167	2	41		5	38	285	49	1,278	81	0	44
再生利用量	2,367	23	295	39	31	33	108	4	159	2	20		0	37	244	46	1,226	81	0	18
減 量 化 量	3,921	0	3,631	41	58	83	38	0	7	0	20			0	27		0	0	0	17
最終処分量	222	0	106	2	5	3	21	0	1	0	0		5	1	14	3	52	0	0	9
そ の 他 量	0								0					0	0					

注）図表中の廃棄物の種類は、排出量に対する処理の割合を示すために、中間処理により種類が変わった場合であっても、発生時の種類でとらえている。

図 2-3-3　排出量に対する再生利用量、減量化量、最終処分量等の種類別構成比

「種類別：無変換」



業種（千t/年）	合計	建設業	製造業	電気・水道業	情報通信業	卸・小売業	運輸業	物品賃貸業	学術・開発	宿泊・飲食	生活関連業	教育・学習支援	医療・福祉	複合サービス業	サービス業
排 出 量	6,511	1,561	3,600	1,055	0	25	8	25	20	9	6	6	24	0	189
再 生 利 用 量	2,367	1,454	751	96	0	19	5	19	20	0	5	1	5	0	8
減 量 化 量	3,921	36	2,722	959	0	3	2	3	0	1	0	1	17	0	180
最 終 処 分 量	222	72	128	0	0	2	2	2	0	8	1	4	2	0	2
そ の 他 量	0			0		0		0							

図 2-3-4　排出量に対する再生利用量、減量化量、最終処分量等の業種別構成比

２．自己中間処理状況

自己中間処理量は 4,034 千トンとなっており、排出量 6,511 千トンの 62.0%を占めている。

自己中間処理量を種類別にみると、図 2-3-5 に示すとおり、汚泥が 3,836 千トン(95.1%)で最も多く、次いで、ガラスくず等が 92 千トン(2.3%)、廃酸が 33 千トン(0.8%)等となっている。

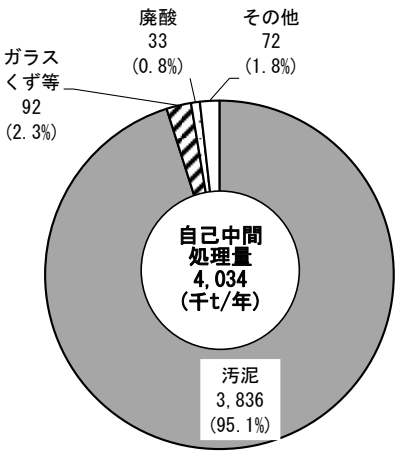


図 2-3-5 種類別自己中間処理量

また、排出量に対する自己中間処理量の割合（自己中間処理率）及び自己中間処理量に対する自己減量化量の割合(自己減量化率)についてみると、図 2-3-6 に示すとおりである。

自己中間処理率が高い種類は、汚泥（95.1%）、廃酸(34.8%）、動植物性残さ(33.0%)等となっており、自己減量化率が高い種類では、廃アルカリ（98.3%）、汚泥（92.0%）、動植物性残さ(89.7%)等となっている。

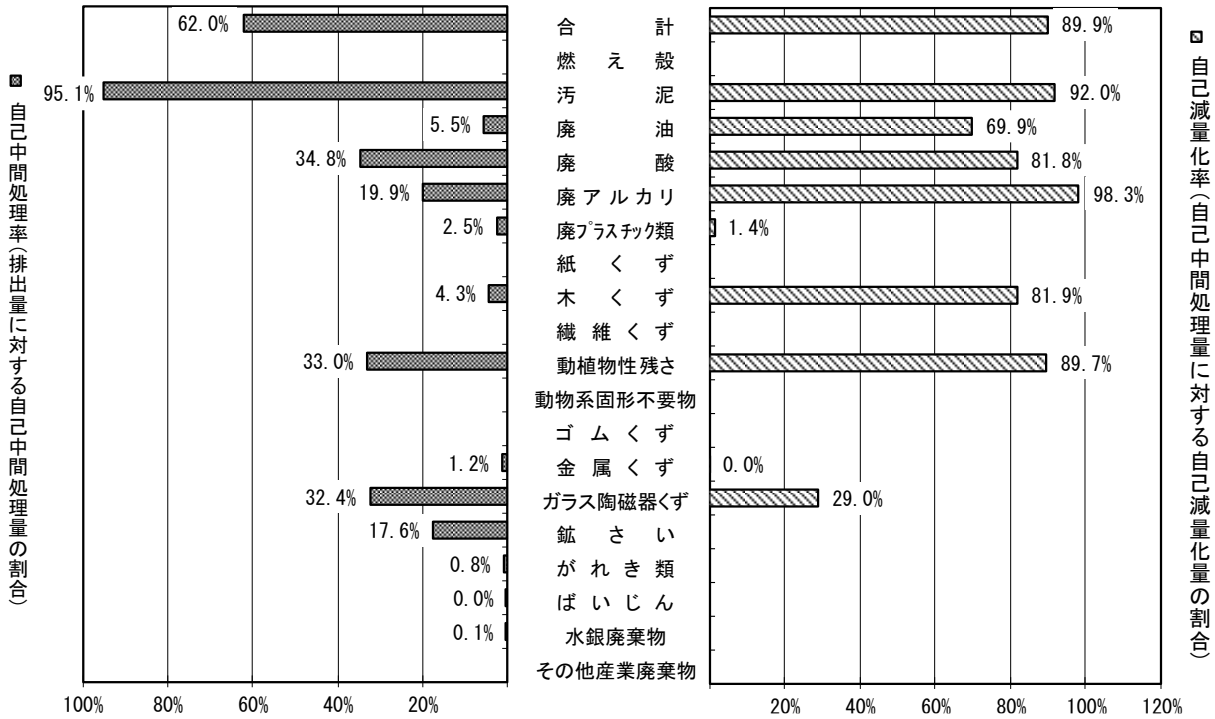


図 2-3-6　自己中間処理率と自己減量化率

３．委託処理状況

処理業者等によって処理(中間処理、最終処分を含む)された委託処理量は、2,723 千トンであり、排出量の 41.8%を占めている。

委託処理量を種類別にみると、図 2-3-7、8 に示すとおり、がれき類が 1,269 千トン(46.6%)で最も多く、次いで汚泥が 470 千トン(17.3%)、ガラスくず等が 167 千トン(6.1%)等となっている。

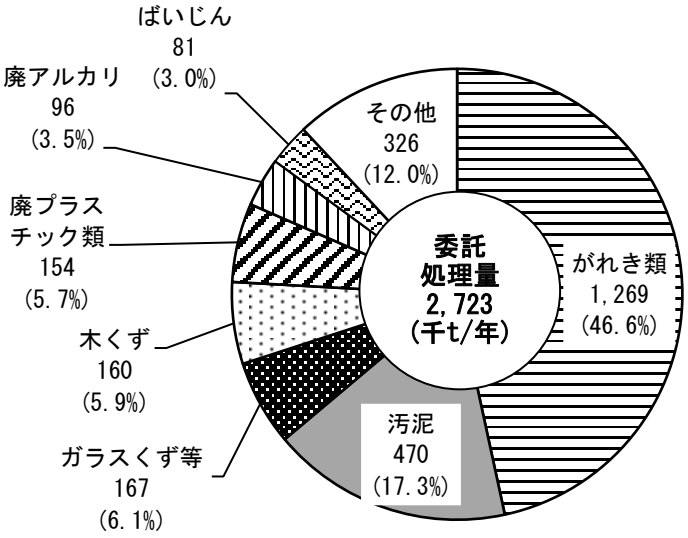
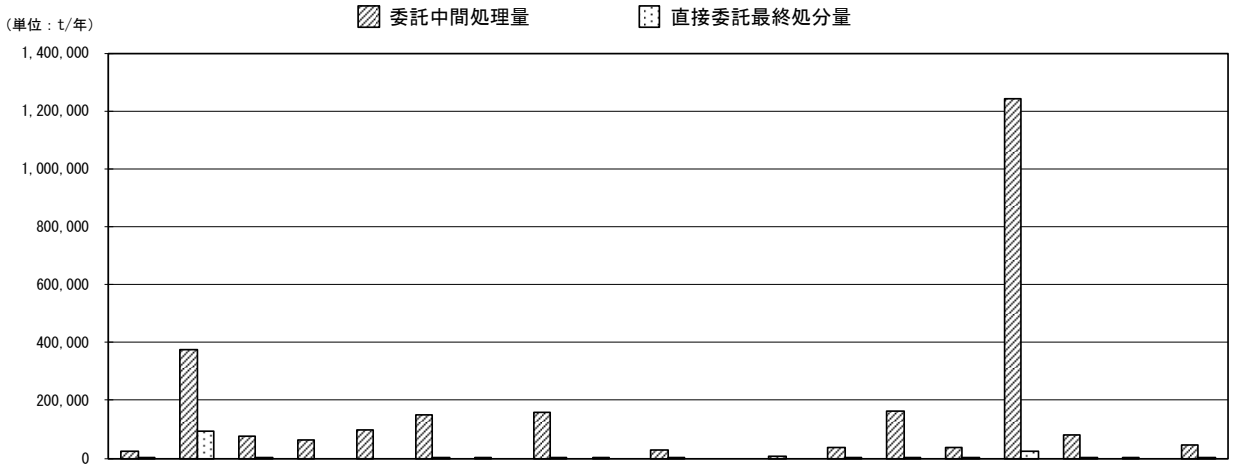


図 2-3-7 種類別委託処理量

また、委託処理量を処理方法別にみると、中間処理量は 2,594 千トンで排出量の(39.8%)、直接最終処分量は 129 千トン(2.0%)となっている。



種類（千t/年）	合計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	水銀廃棄物	その他産業廃棄物
委託処理量	2,723 (100%)	25 (0.9%)	470 (17.3%)	77 (2.8%)	63 (2.3%)	96 (3.5%)	154 (5.7%)	4 (0.1%)	160 (5.9%)	2 (0.1%)	29 (1.0%)		5 (0.2%)	37 (1.3%)	167 (6.1%)	41 (1.5%)	1,269 (46.6%)	81 (3.0%)	0 (0.0%)	44 (1.6%)
委託中間処理量	2,594 (100%)	25 (1.0%)	376 (14.5%)	77 (3.0%)	63 (2.4%)	96 (3.7%)	152 (5.8%)	4 (0.2%)	160 (6.2%)	2 (0.1%)	28 (1.1%)		5 (0.2%)	37 (1.4%)	164 (6.3%)	38 (1.5%)	1,244 (47.9%)	81 (3.1%)	0 (0.0%)	44 (1.7%)
委託直接最終処分量	129 (100%)	0 (0.2%)	94 (73.3%)				3 (2.0%)		0 (0.0%)		315 (0.2%)			0 (0.0%)	3 (2.7%)	2 (1.9%)	25 (19.6%)	27 (0.0%)		0 (0.0%)

図 2-3-8　種類別の委託処理量の内訳

４．資源化および再生利用状況

資源化量は 2,746 千トンとなっており、発生量の 39.9%を占めている。

資源化量を種類別にみると、図 2-3-9 に示すとおりがれき類が 1,238 千トン(45.1%)で最も多く、次いで、汚泥 327 千トン(11.9%)、ガラスくず等 247 千トン(9.0%)等となっている。

また、再生利用量は 2,367 千トンとなっており、排出量の 36.4%を占めている。

再生利用量を種類別にみると、図 2-3-10 に示すとおりがれき類が 1,217 千トン(51.4%)で最も多く、次いで、汚泥 294 千トン(12.4%)、ガラスくず等 243 千トン(10.3%)、木くず 159 千トン(6.7%)、廃プラスチック類 107 千トン(4.5%)となっている。

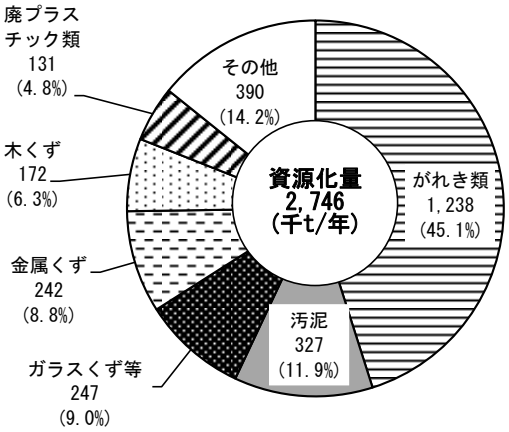


図 2-3-9 種類別の資源化量

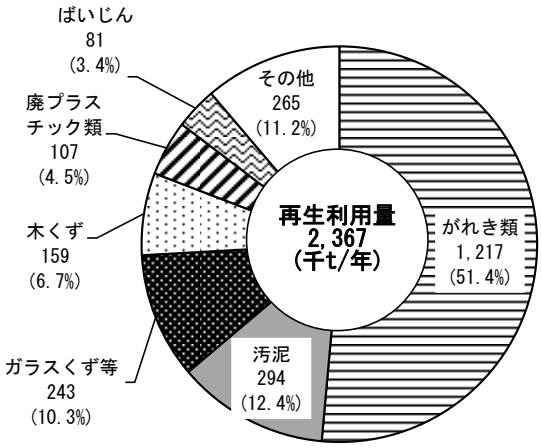
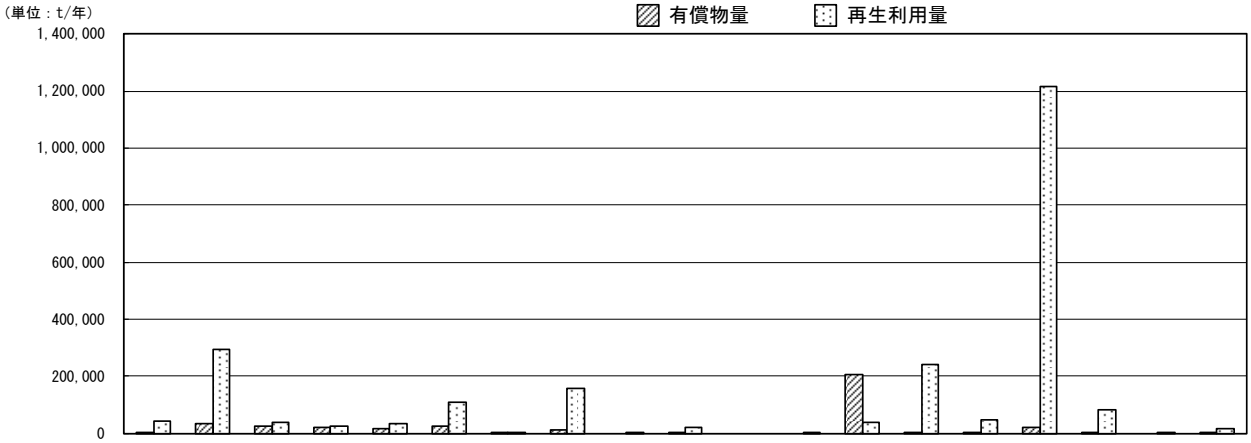


図 2-3-10 種類別の再生利用量



種類:変換(千t/年)	合計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	水銀廃棄物	その他産業廃棄物
資源化量	2,746 (100%)	43 (1.6%)	327 (11.9%)	65 (2.4%)	50 (1.8%)	47 (1.7%)	131 (4.8%)	6 (0.2%)	172 (6.3%)	2 (0.1%)	21 (0.8%)		0 (0.0%)	242 (8.8%)	247 (9.0%)	51 (1.9%)	1,238 (45.1%)	84 (3.1%)	0 (0.0%)	21 (0.7%)
有償物量	379 (100%)	1 (0.4%)	33 (8.7%)	27 (7.0%)	23 (6.0%)	14 (3.8%)	24 (6.3%)	2 (0.6%)	13 (3.4%)		1 (0.3%)			205 (54.0%)	3 (0.9%)	5 (1.3%)	21 (5.6%)	3 (0.1%)		4 (1.0%)
再生利用量	2,367 (100%)	41 (1.7%)	294 (12.4%)	39 (1.6%)	27 (1.2%)	33 (1.4%)	107 (4.5%)	4 (0.2%)	159 (6.7%)	2 (0.1%)	20 (0.8%)		0 (0.0%)	37 (1.6%)	243 (10.3%)	46 (1.9%)	1,217 (51.4%)	81 (3.4%)	0 (0.0%)	17 (0.7%)

図 2-3-11　種類別の再生利用量の内訳

なお、用途別にみた資源化状況は図 2-3 12、表 2-3 1に示すとおりであり、土木・建設資材・再生資材が 1,490 千トン（資源化量全体の 54.3%）で最も多く、次いで、金属資源が 345 千トン（同 12.6%)、燃料が 267 千トン（同 9.7%）等となっている。

表 2-3-1　種類別の資源化量の内訳

（単位:t/年）

用途 / 種類:変換	合計	金属資源	燃料	土木・建設資材・再生資材	セメント原材料	飼料・肥料・土壌改良材	パルプ・紙原料	ガラス原材料	プラスチック原材料	再生油・再生溶剤	再生タイヤ	高炉還元（製鉄用コークス代替材）	その他
合計	2,746 (100.0%)	345 (12.6%)	267 (9.7%)	1,490 (54.3%)	82 (3.0%)	112 (4.1%)	14 (0.5%)	19 (0.7%)	75 (2.7%)	36 (1.3%)	1 (0.0%)	0 (0.0%)	307 (11.2%)
燃え殻	43		37		2								4
汚泥	327		0	8	51	69							199
有機性汚泥	121		0	5	48	68							1
無機性汚泥	205		0	3	3	1							198
廃油	65	0	27	0	2	0				36			0
一般廃油	45	0	27	0	2	0				16			0
廃溶剤	19									19			
固形油	0		0										
油でい	1				0					1			
油付着物	0		0										
廃酸	50		1	0	0	11							39
廃アルカリ	47		25	0	22								0
廃プラスチック類	131	1	45	1	0				71		1	0	12
廃プラスチック	130	1	44	1	0				71		1	0	12
廃タイヤ	1		1		0						0		0
紙くず	6		1	0			4						0
木くず	172	0	119	19	0	12	9					0	12
繊維くず	2		0	2	0		0						
動植物性残さ	21		1	1		19							0
動物系固形不要物													
ゴムくず	0												0
金属くず	242	238	1	1	0								2
ガラス陶磁器くず	247	17	0	198	3			18					11
鉱さい	51	2		50									
がれき類	1,238	3	7	1,209	1	1	1	0	2				14
コンクリート片	608		1	604	1								2
廃アスファルト	455		2	445	0								8
その他	175	3	4	160	0	1	1	0	2				5
ばいじん	84	84											
動物のふん尿													
動物の死体													
水銀使用製品産業廃棄物	0	0		0				0					0
その他の産業廃棄物	21	0	3	1	0		0	0	2				14
感染性廃棄物	1	0		1	0								0
混合物等	19	0	3				0	0	2				14

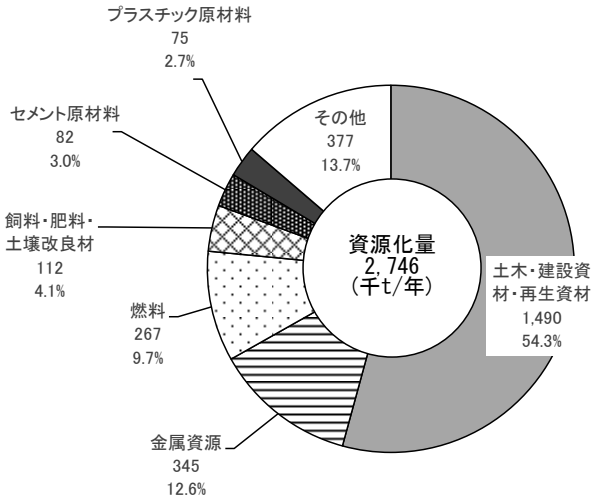


図 2-3-12 用途別の資源化量

５．最終処分状況

最終処分量は 222 千トンとなっており、排出量の 3.4%を占めている。

種類別にみると、図 2-3-13 に示すとおり汚泥が 113 千トン(50.7%)で最も多く、次いで、がれき類 52 千トン(23.3%)、廃プラスチック類が 21 千トン(9.3%)、ガラスくず等が 14 千トン(6.1%)となっている。

また、業種別にみると製造業の 128 千トン（57.0%）と建設業の 72 千トン（32.1%）で全体の約 91%を占めている。

最終処分量 222 千トンの処分先を主体別にみると、図 2-3-15 に示すとおりすべて業者等による委託最終処分量で占めている。

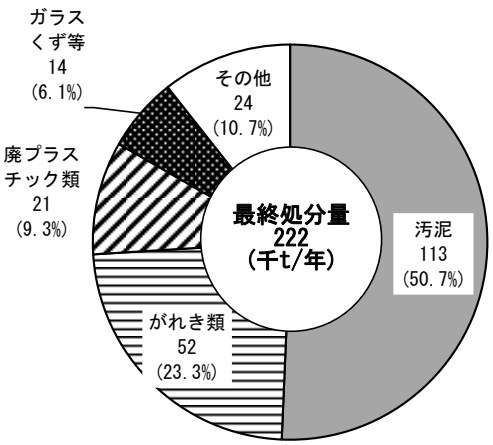


図 2-3-13 種類別の最終処分量

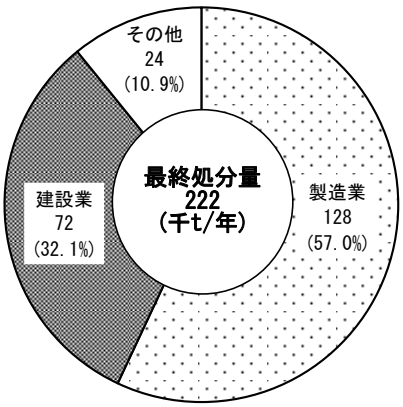
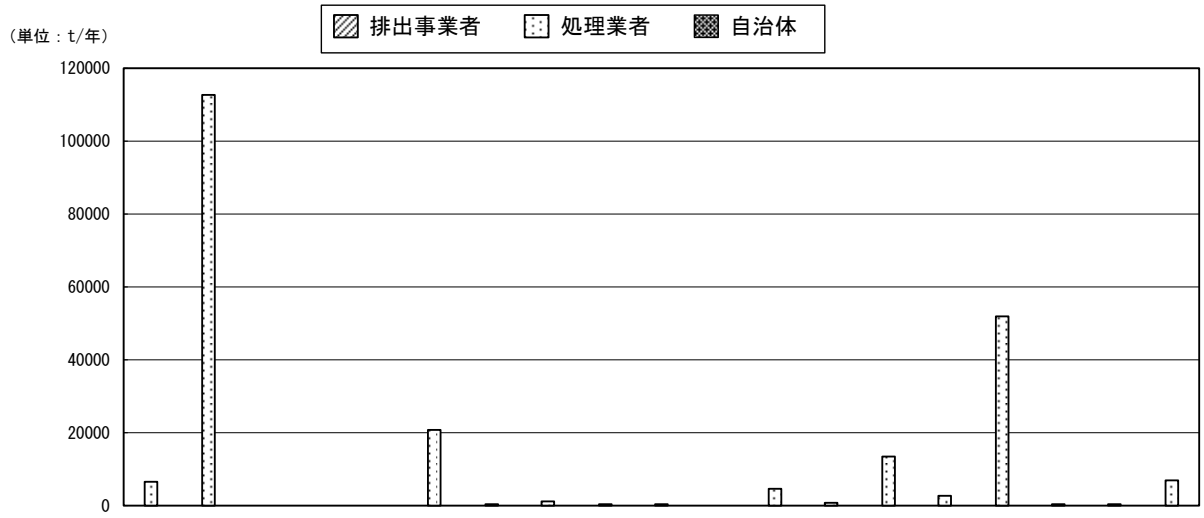


図 2-3-14 業種別の最終処分量



種類:変換（千t/年）		合計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	水銀廃棄物	その他産業廃棄物
最終処分量		222 (100%)	6 (2.9%)	113 (50.7%)	0 (0.1%)	0 (0.1%)	0 (0.1%)	21 (9.3%)	0 (0.1%)	1 (0.4%)	0 (0.1%)	0 (0.2%)		5 (2.1%)	1 (0.3%)	14 (6.1%)	3 (1.1%)	52 (23.3%)	0 (0.1%)	0 (0.0%)	7 (3.0%)
	処理業者	222 (100%)	6 (2.9%)	113 (50.7%)	0 (0.1%)	0 (0.1%)	0 (0.1%)	21 (9.3%)	0 (0.1%)	1 (0.4%)	0 (0.1%)	0 (0.2%)		5 (2.1%)	1 (0.3%)	14 (6.1%)	3 (1.1%)	52 (23.3%)	0 (0.1%)	0 (0.0%)	7 (3.0%)
	排出事業者																				
	自治体																				

図 2-3-15　種類別・処分主体別の最終処分量の内訳

６．廃プラスチック類の排出・処理状況

三重県においては、三重県循環型社会形成推進計画（令和３年３月策定）に基づき、プラスチック対策を進めてきたところです。さらに県の中期の戦略計画であるみえ元気プラン（令和４年 10 月）においては、特に取組を一層加速させていかなければならない課題のひとつである「脱炭素化をチャンスととらえた産業振興」において、プラスチックの一層の循環的利用に係る取組を促進していくこととしています。

排出量を業種別にみると、図 2-3-16 に示すとおり、製造業が 119 千トン(70.9%)で最も多く、次いで、建設業が 24 千トン(14.1%)、卸・小売業が 11 千トン(6.5%)、医療・福祉が 5 千トン(2.7%)等となっている。

一方、排出量に対する再生利用量、減量化量、最終処分量の割合を業種別にみると、図 2-3-17 に示すとおりである。発生から最終処分までの産業廃棄物の流れは、図 2-3-18 に示すとおりである。

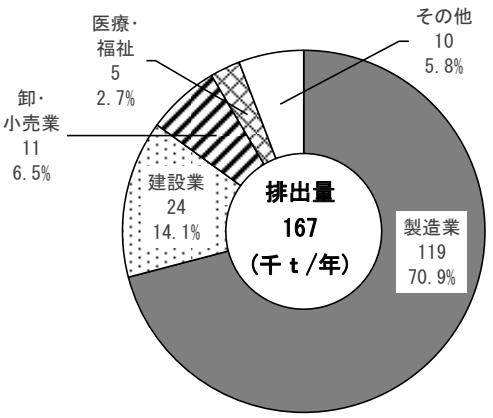
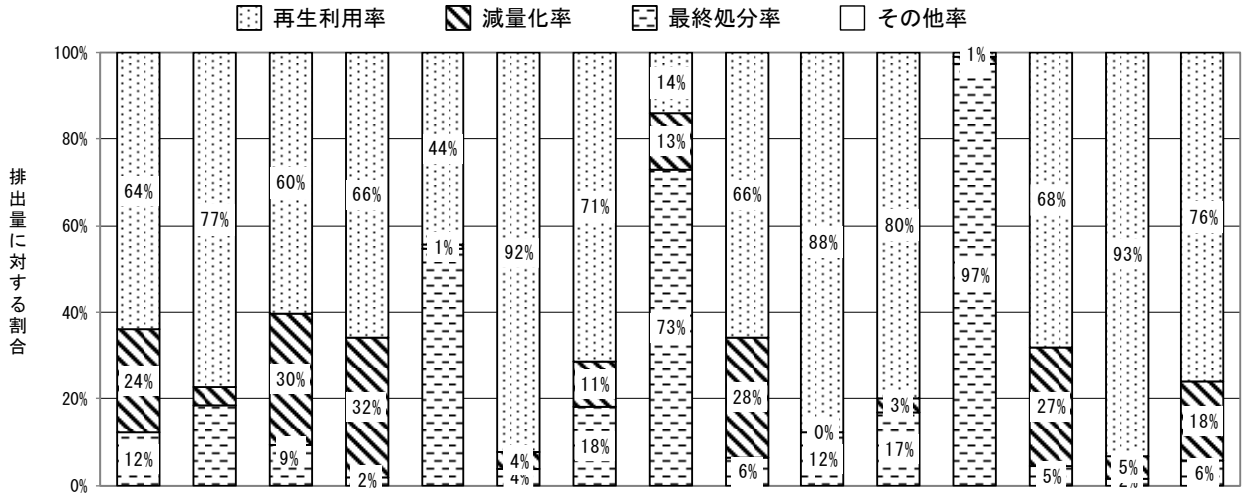
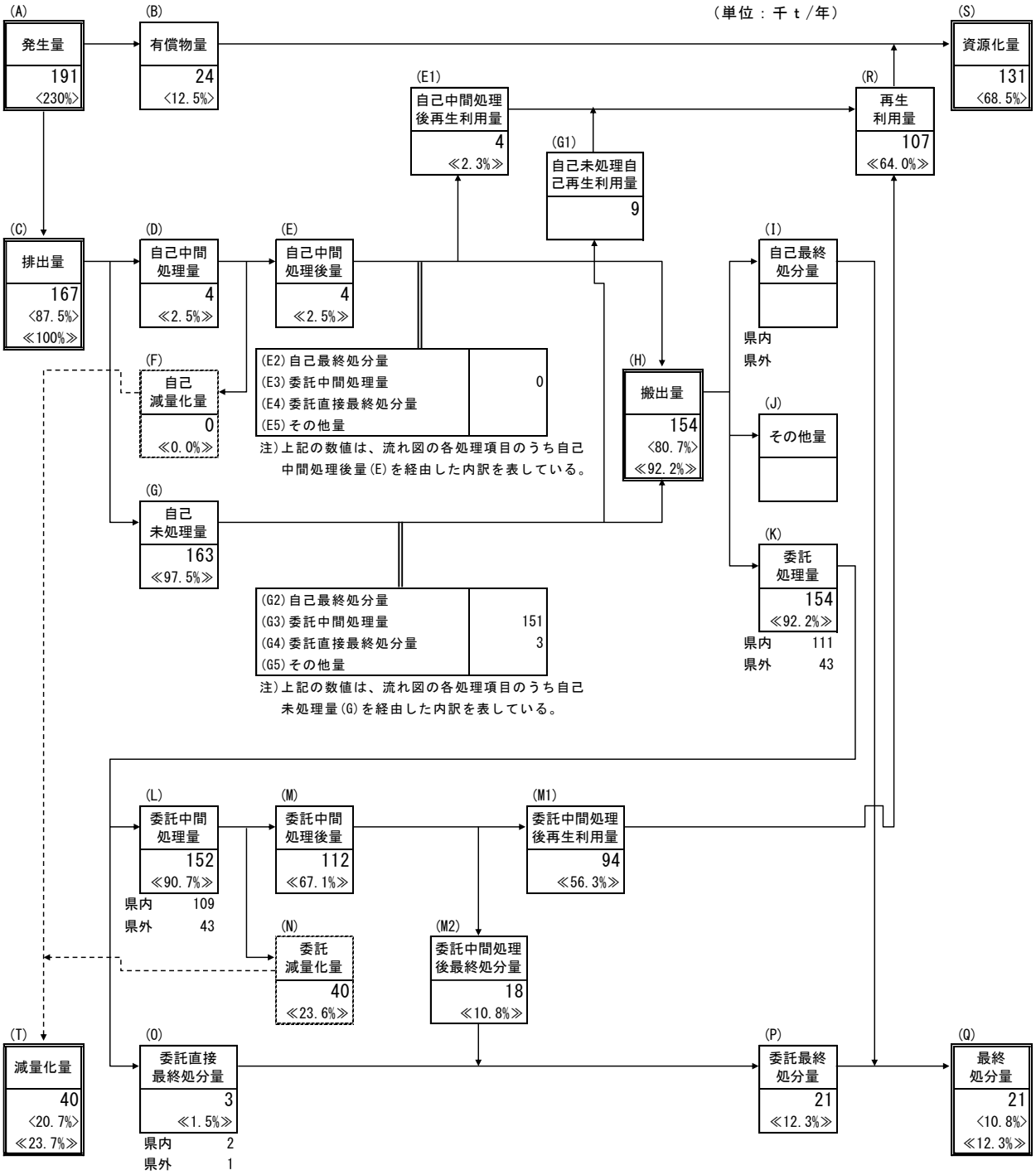


図 2-3-16 業種別の排出量



業種（千t/年）	合計	建設業	製造業	電気・水道業	情報通信業	卸・小売業	運輸業	物品賃貸業	学術・開発	宿泊・飲食	生活関連業	教育・学習支援	医療・福祉	複合サービス業	サービス業
排出量	167	24	119	0	0	11	2	0	0	0	1	4	5	0	1
再生利用量	107	18	71	0	0	10	2	0	0	0	1	0	3	0	1
減量化量	40	1	36	0	0	0	0	0	0		0	0	1	0	0
最終処分量	21	4	11	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
その他量															

図 2-3-17　排出量に対する再生利用量、減量化量、最終処分量等の業種別構成比



注)＜ ＞内の数値は発生量に対する割合を、≪ ≫内の数値は排出量に対する割合を示している。

図 2-3-18　廃プラスチック類の排出及び処理状況

処理状況の詳細を、図 2-3-19 に示すとおりである。再生利用方法別にみると、マテリアルリサイクルが 85 千トン、サーマルリサイクルが 46 千トン、ケミカルリサイクルが 0.3 千トンとなっている。

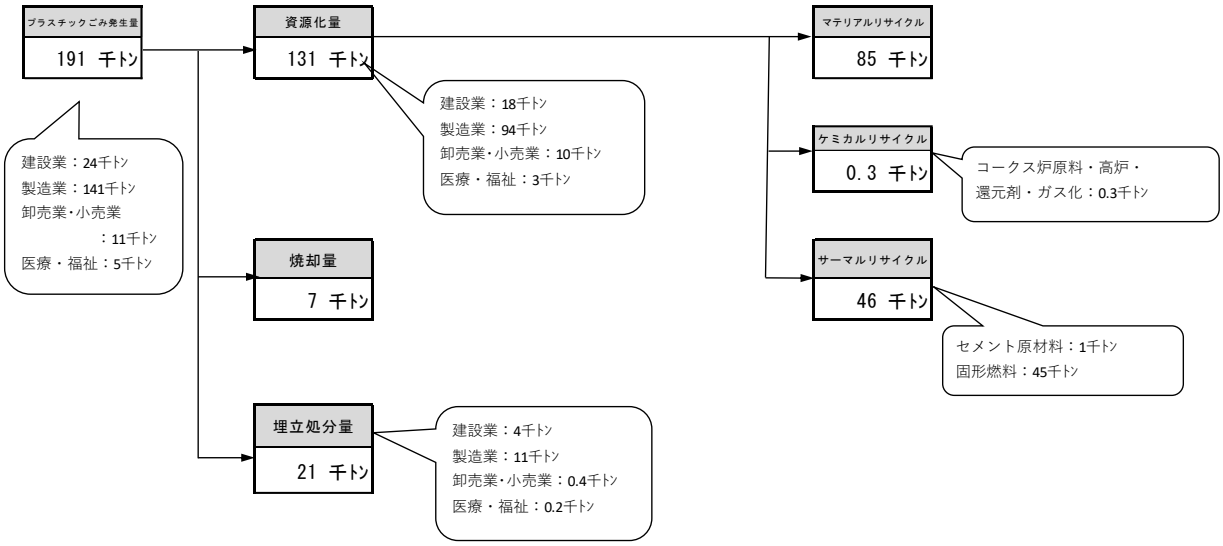


図 2-3-19　廃プラスチック類の処理状況

第４節　業種別の調査結果

１．建設業

建設業からの排出量は 1,561 千トンとなっており、県全体の排出量の 24.0%を占めている。

排出量を種類別にみると、図 2-4-1 に示すようにがれき類が 1,214 千トン(77.7%)で最も多く、次いで木くず 141 千トン(9.0%)、汚泥 106 千トン(6.8%)、ガラスくず等 46 千トン(2.9%）となっている。

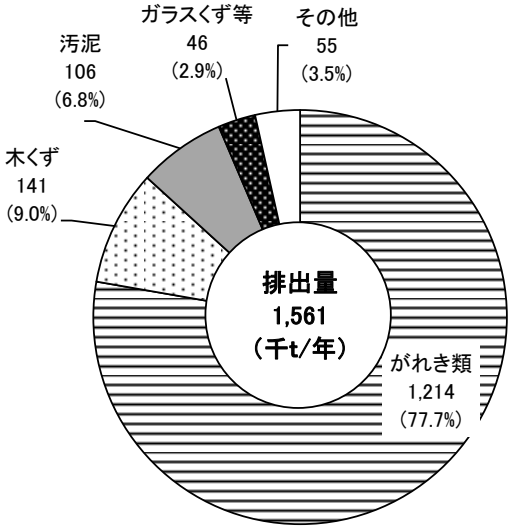
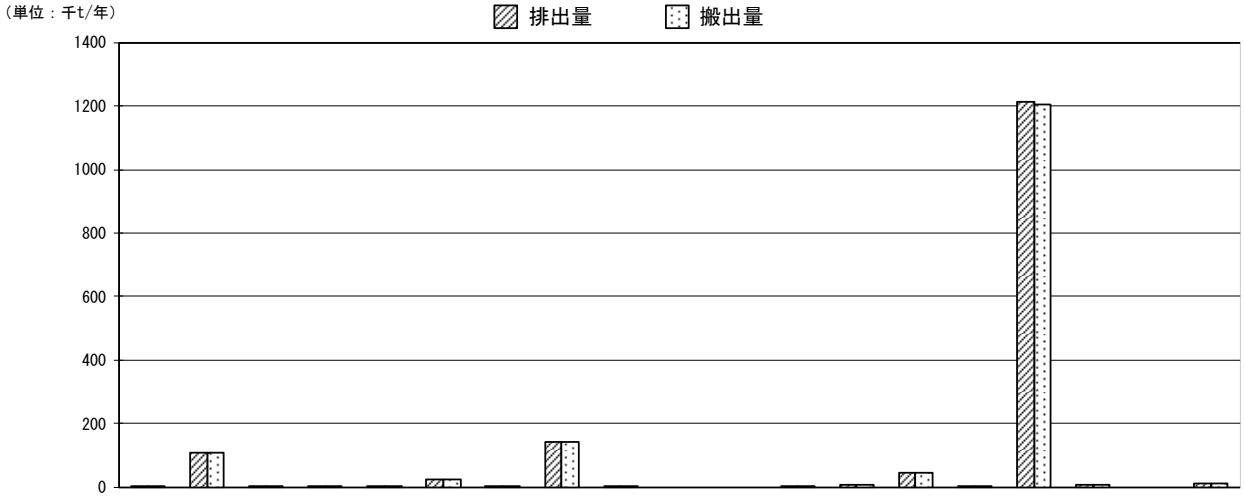
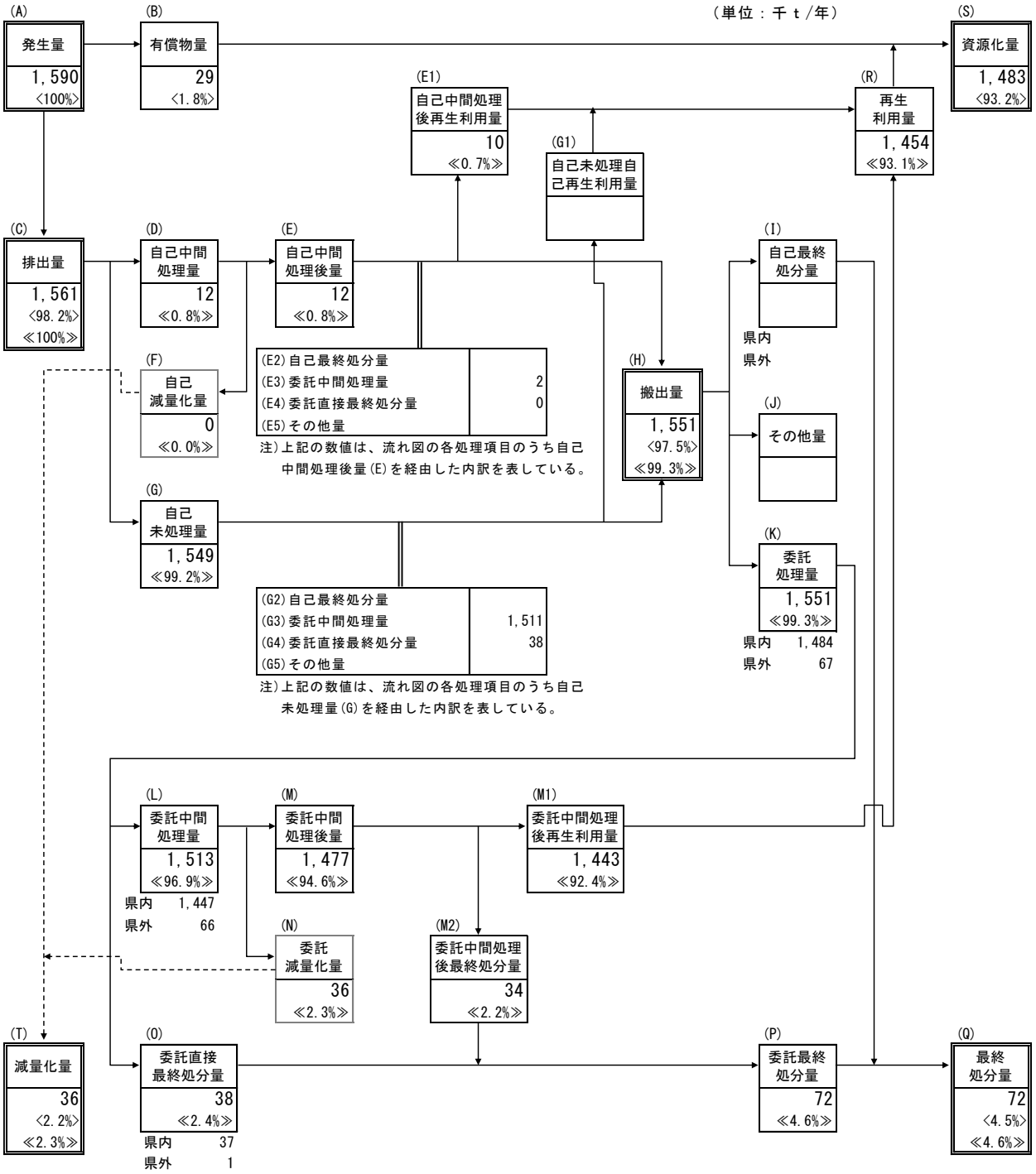


図 2-4-1 建設業の種類別排出量



種類:変換（千t/年）	合計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	水銀廃棄物	その他産業廃棄物
排出量	1,561	0	106	0	0	0	24	4	141	2			0	7	46	0	1,214	5		12
（%）	(100%)	(0.0%)	(6.8%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(1.5%)	(0.2%)	(9.0%)	(0.1%)			(0.0%)	(0.4%)	(2.9%)	(0.0%)	(77.7%)	(0.3%)		(0.8%)
搬出量	1,551	0	106	0	0	0	23	4	139	2			0	7	46	0	1,204	5		12
（%）	(100%)	(0.0%)	(6.9%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(1.5%)	(0.2%)	(9.0%)	(0.1%)			(0.0%)	(0.4%)	(2.9%)	(0.0%)	(77.7%)	(0.3%)		(0.8%)

図 2-4-2　建設業の種類別排出量、搬出量



注)1. 発生量等の数値は、t/年でとらえたデータを四捨五入し、千t/年で示した。
2. ＜ ＞内の数値は発生量に対する割合を、≪ ≫内の数値は排出量に対する割合を示している。

図 2-4-3　建設業からの排出及び処理状況

２．製造業

製造業からの排出量は 3,600 千トンとなっており、県全体の排出量の 55.3%を占めている。

排出量を種類別にみると、図 2-4-4 に示すように汚泥が 2,716 千トン(75.4%)で最も多く、次いでガラスくず等 236 千トン(6.6%)、廃プラスチック類 119 千トン(3.3%)、廃アルカリ 112 千トン(3.1%)となっている。

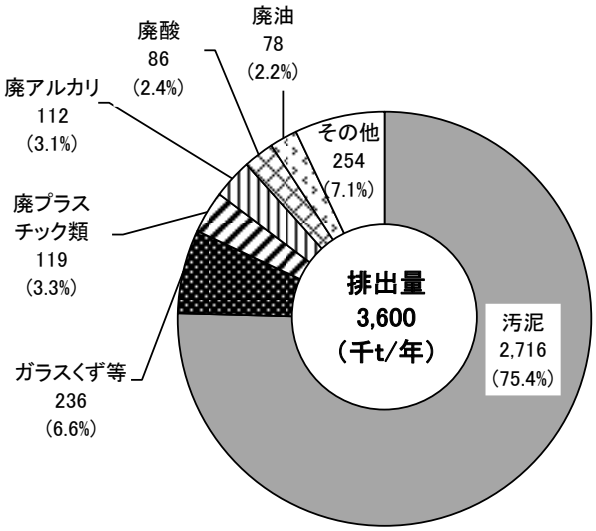
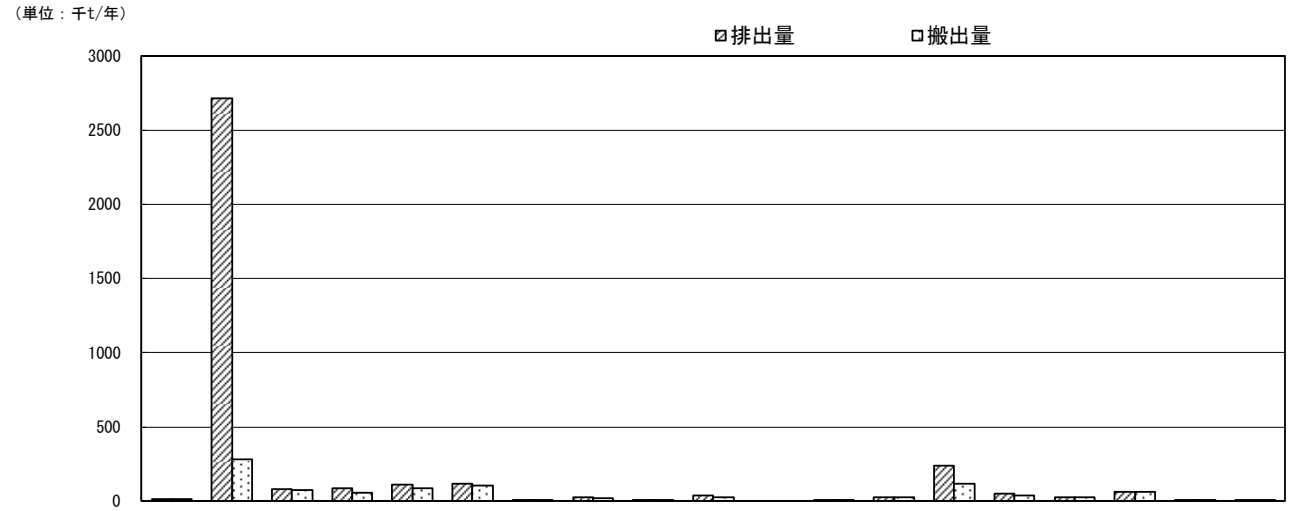
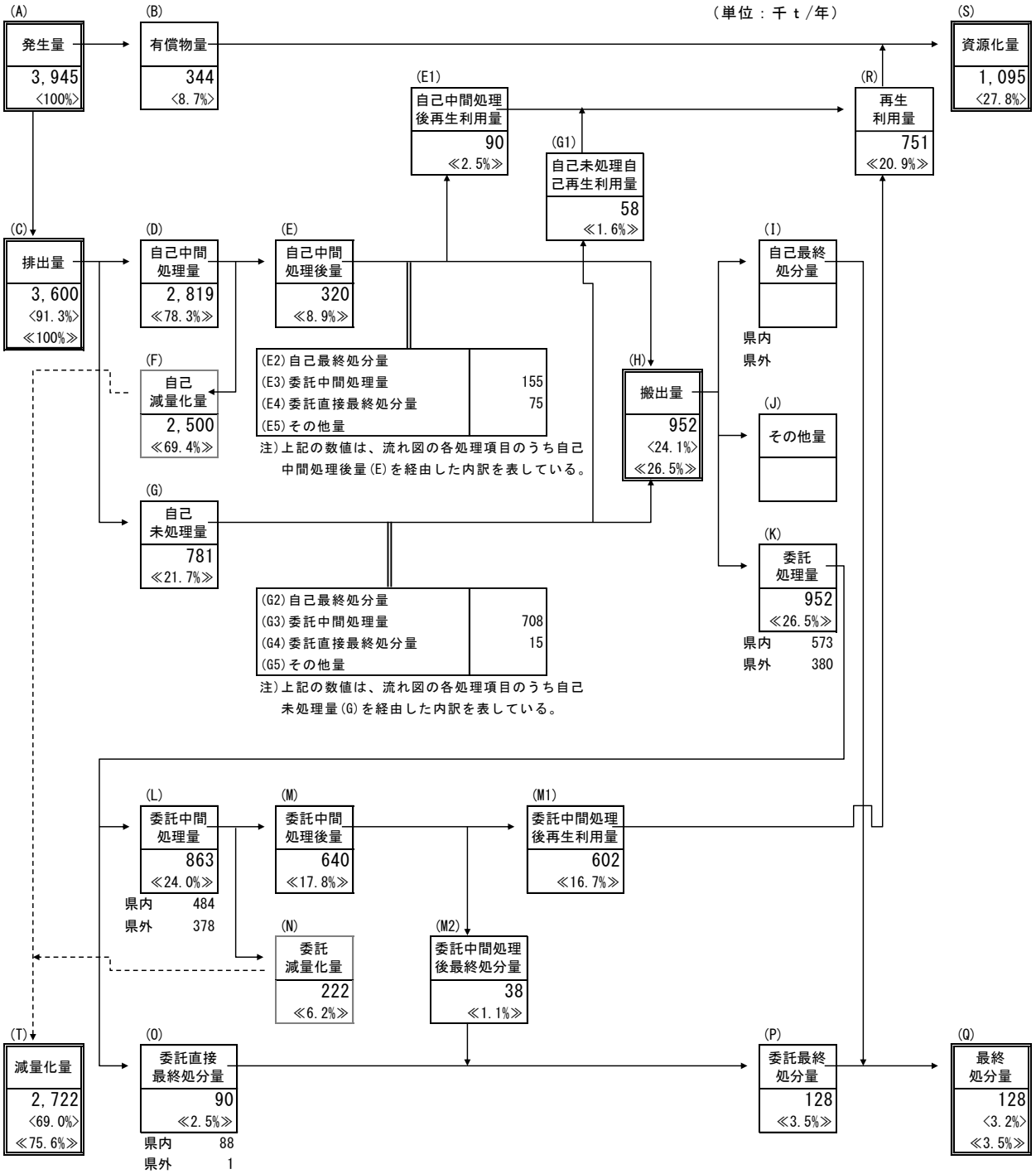


図 2-4-4 製造業の種類別排出量



種類:変換 (千t/年)	合計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	水銀廃棄物	その他産業廃棄物
排出量	3,600	13	2,716	78	86	112	119	0	23	0	41		5	28	236	49	27	63	0	7
(%)	(100%)	(0.4%)	(75.4%)	(2.2%)	(2.4%)	(3.1%)	(3.3%)	(0.0%)	(0.6%)	(0.0%)	(1.1%)		(0.1%)	(0.8%)	(6.6%)	(1.3%)	(0.7%)	(1.7%)	(0.0%)	(0.2%)
搬出量	952	14	283	73	55	89	106	0	17	0	29		5	27	118	41	27	63	0	7
(%)	(100%)	(1.5%)	(29.8%)	(7.7%)	(5.7%)	(9.3%)	(11.1%)	(0.0%)	(1.8%)	(0.0%)	(3.0%)		(0.5%)	(2.8%)	(12.4%)	(4.3%)	(2.8%)	(6.6%)	(0.0%)	(0.7%)

図 2-4-5　製造業の種類別排出量、搬出量



注)＜ ＞内の数値は発生量に対する割合を、≪ ≫内の数値は排出量に対する割合を示している。

図 2-4-6　製造業からの排出及び処理状況

３．電気・水道業

電気・水道業からの排出量は 1,055 千トンとなっており、県全体の排出量の 16.2%を占めている。

排出量を種類別にみると、図 2-4-7 に示すように汚泥が 1,026 千トン(97.2%)とほとんどを占めている。

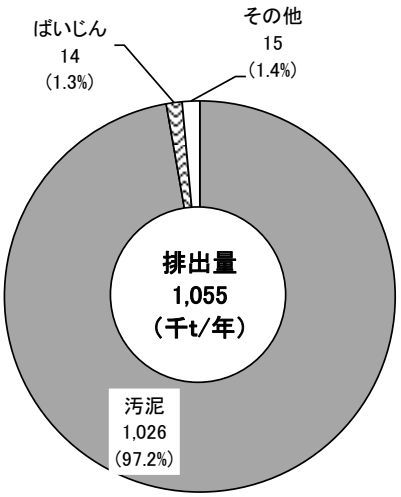
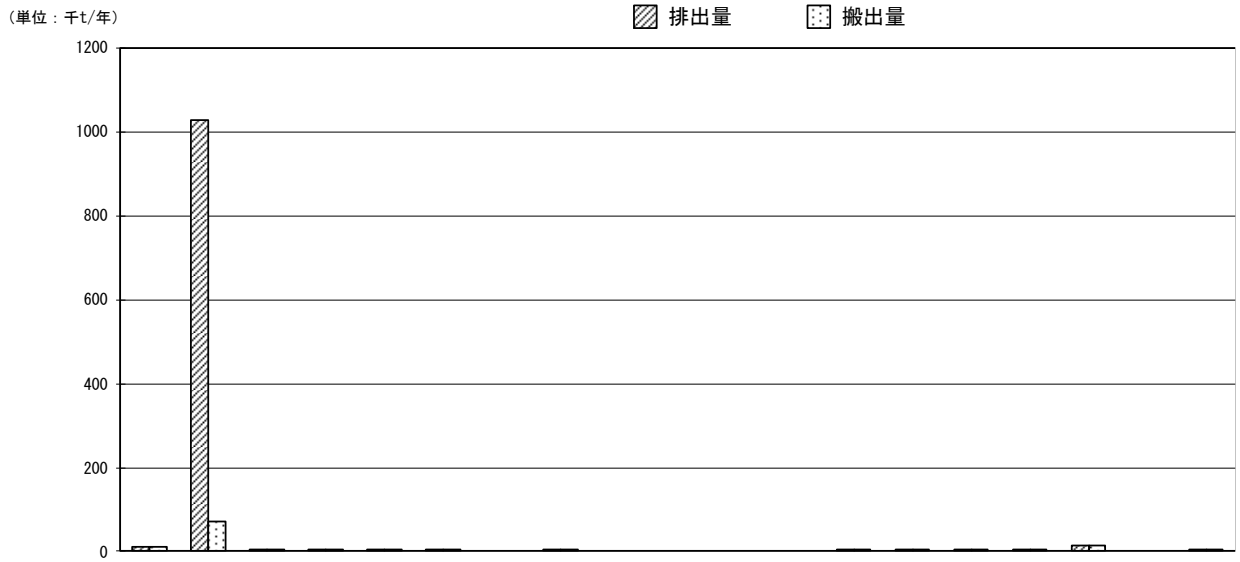
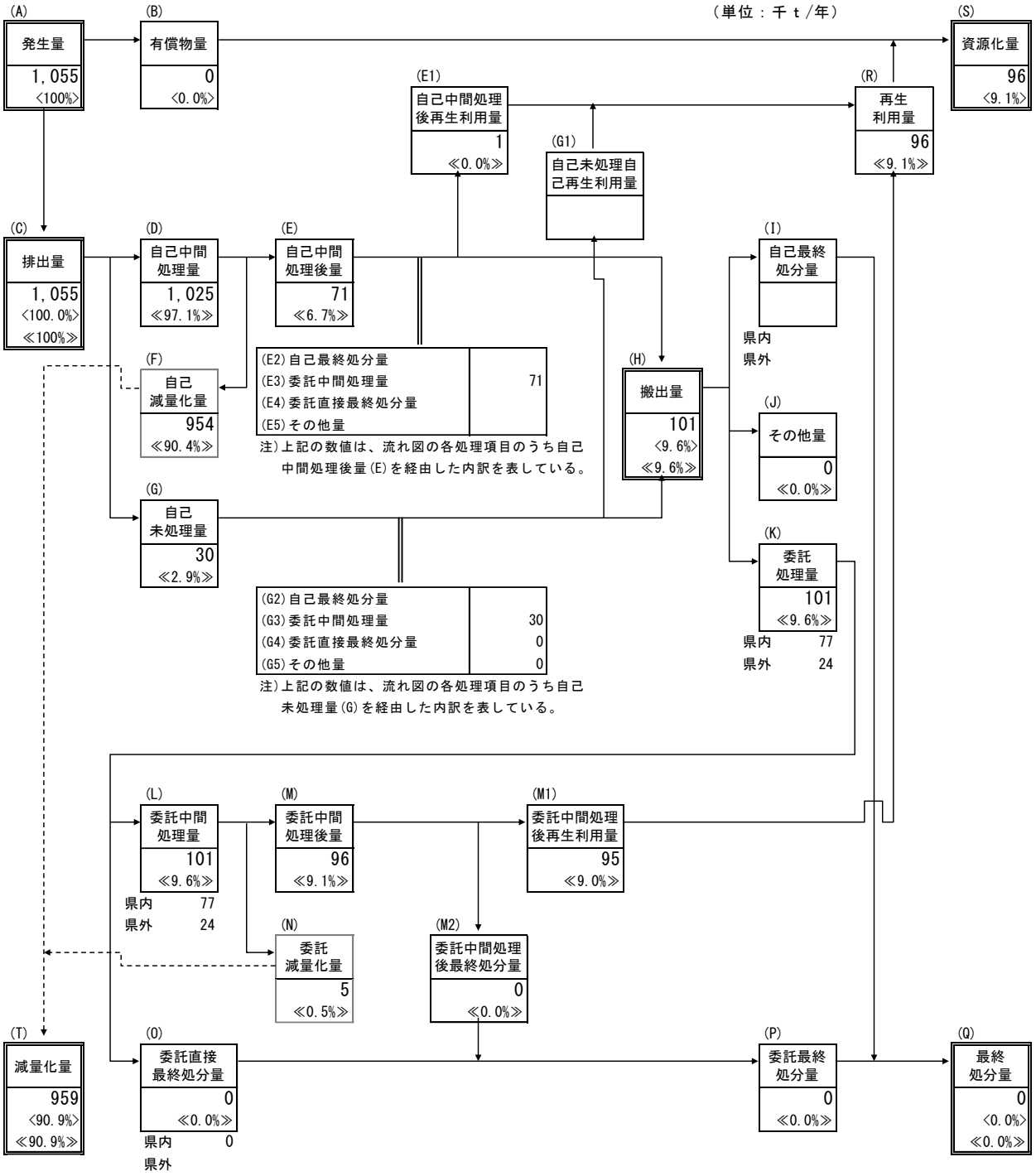


図 2-4-7 電気・水道業の種類別排出量



種類:変換 (千t/年)	合計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	水銀廃棄物	その他産業廃棄物
排出量	1,055	10	1,026	0	0	2	0		0					0	0	0	3	14		0
(%)	(100%)	(0.9%)	(97.2%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.2%)	(0.0%)		(0.0%)					(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.2%)	(1.3%)		(0.0%)
搬出量	101	11	71	0	0	2	0		0					0	0	0	3	14		0
(%)	(100%)	(10.4%)	(70.7%)	(0.0%)	(0.0%)	(1.9%)	(0.2%)		(0.0%)					(0.1%)	(0.0%)	(0.0%)	(2.5%)	(13.7%)		(0.3%)

図 2-4-8　電気・水道の種類別排出量、搬出量



注)＜ ＞内の数値は発生量に対する割合を、≪ ≫内の数値は排出量に対する割合を示している。

図 2-4-9　電気・水道業からの排出及び処理状況

４．情報通信業

情報通信業からの排出量は 0.17 千トンとなっている。

排出量を種類別にみると、図 2-4-10 に示すようにがれき類が 0.06 千トン(33.9%)で最も多く、次いで廃プラスチック類 0.06 千トン(33.3%)となっている。

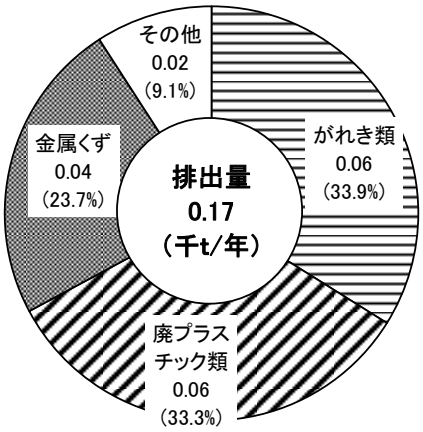
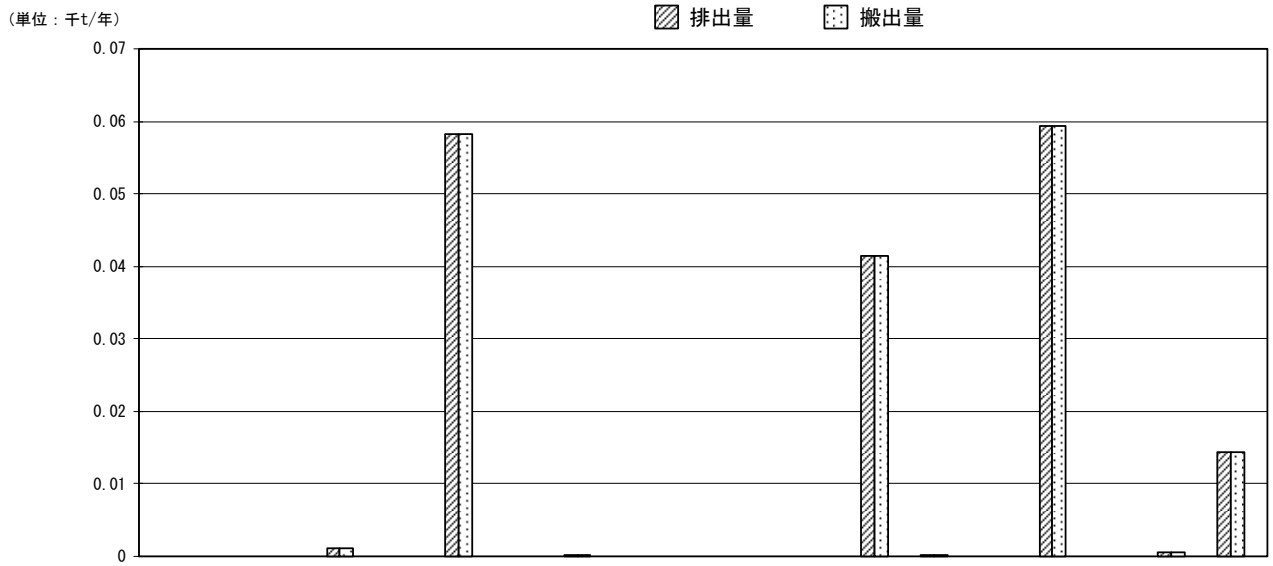
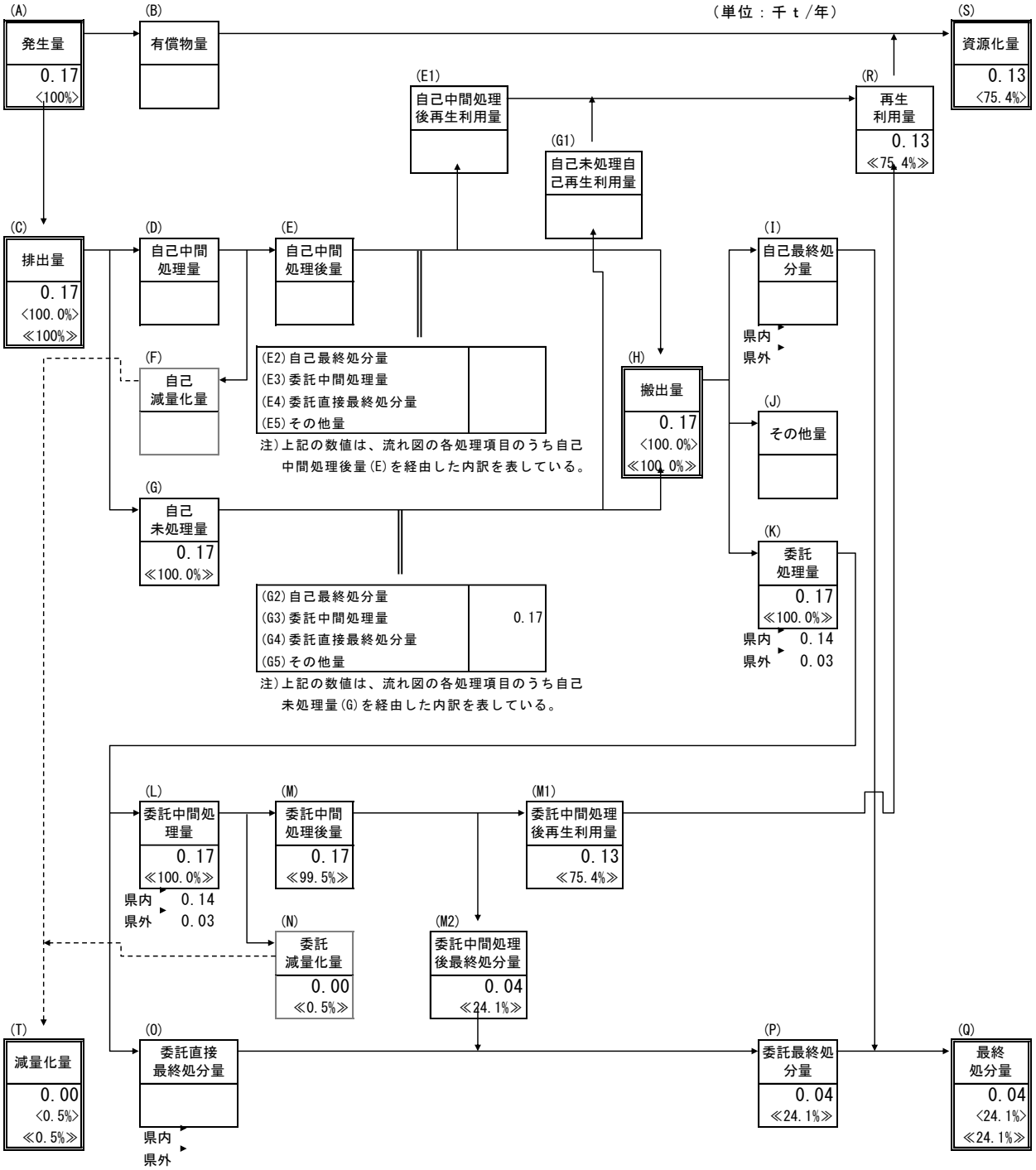


図 2-4-10 情報通信業の種類別排出量



種類:変換 (千t/年)	合計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	水銀廃棄物	その他産業廃棄物
排出量	0.17				0.00		0.06		0.00					0.04	0.00		0.06		0.00	0.01
(%)	(100%)				(0.6%)		(33.3%)		(0.1%)					(23.7%)	(0.0%)		(33.9%)		(0.2%)	(8.2%)
搬出量	0.17				0.00		0.06		0.00					0.04	0.00		0.06		0.00	0.01
(%)	(100%)				(0.6%)		(33.3%)		(0.1%)					(23.7%)	(0.0%)		(33.9%)		(0.2%)	(8.2%)

図 2-4-11　情報通信業の種類別排出量、搬出量



注)＜　＞内の数値は発生量に対する割合を、≪　≫内の数値は排出量に対する割合を示している。

図 2-4-12　情報通信業からの排出及び処理状況

５．運輸業

運輸業からの排出量は 8.3 千トンとなっており、県全体の排出量の 0.1%を占めている。

排出量を種類別にみると、図 2-4-13 に示すように汚泥が 2.9 千トン(34.4%)で最も多く、次いで廃プラスチック類が 2.5 千トン(29.7%)となっている。

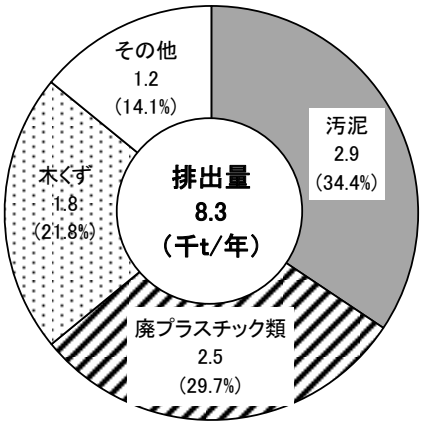
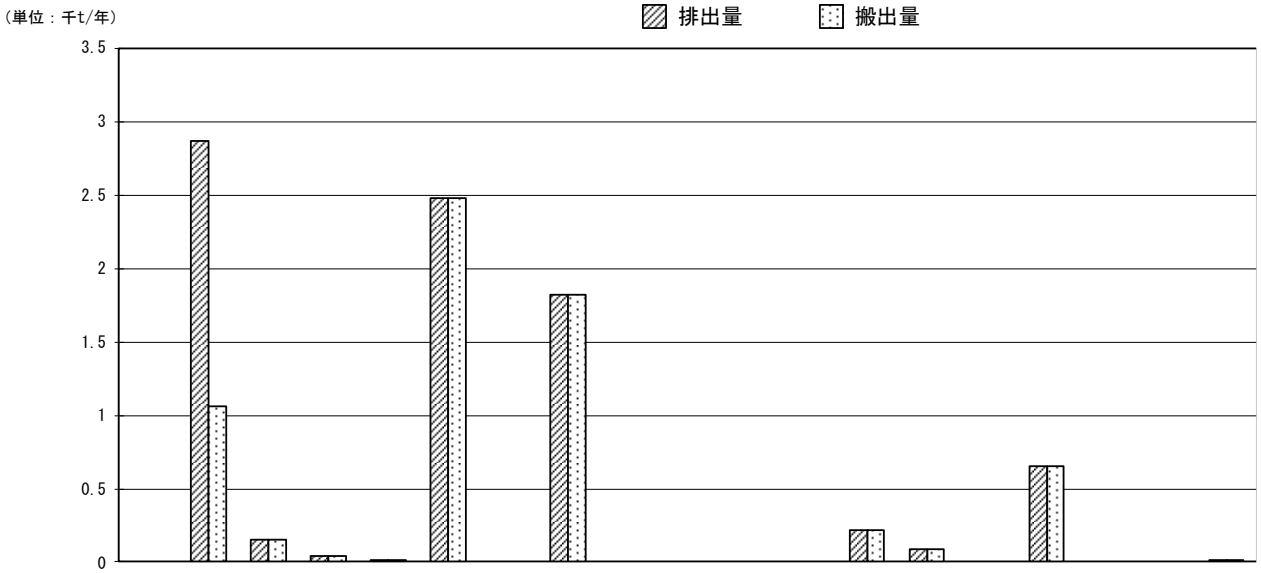
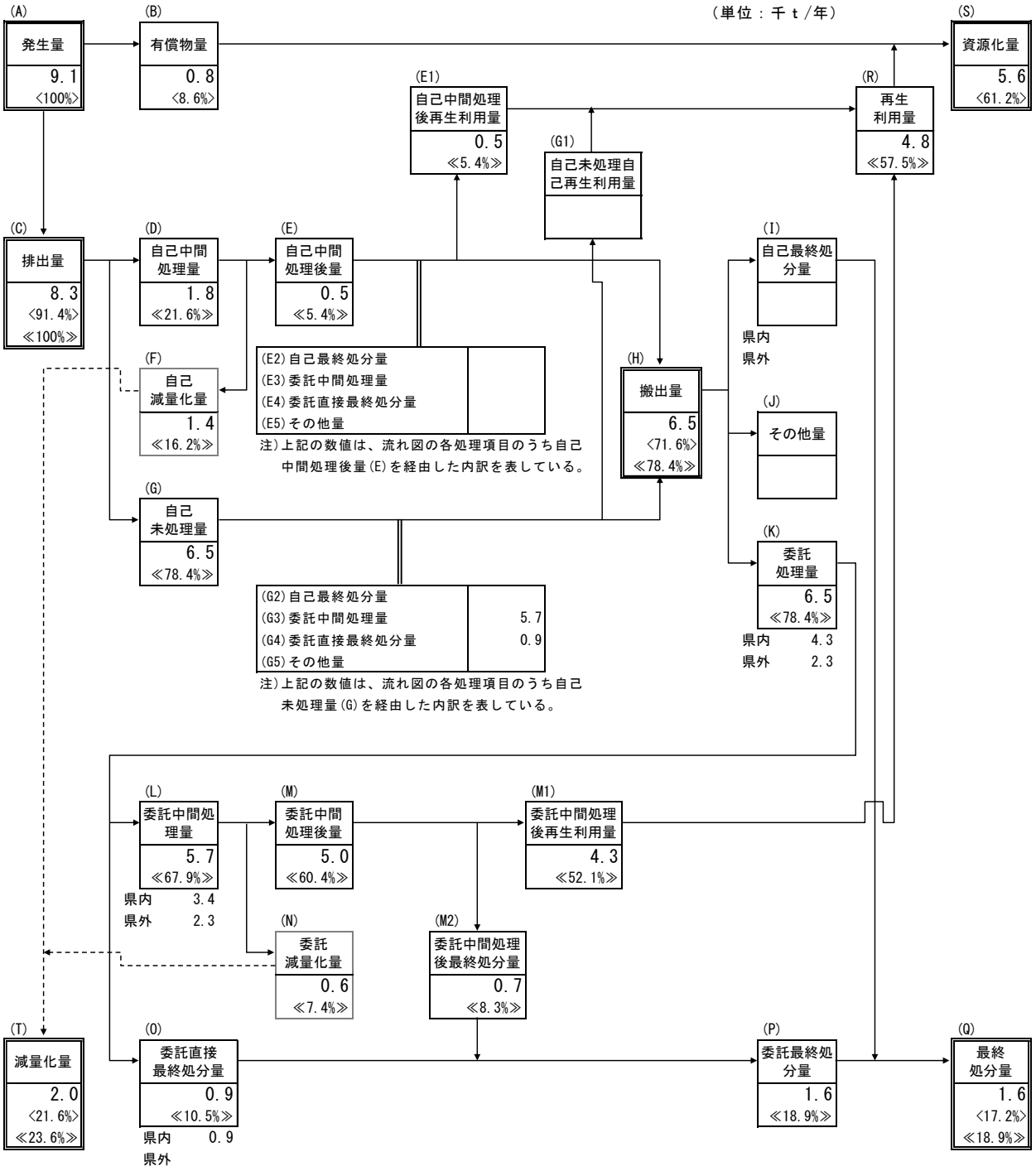


図 2-4-13 運輸業の種類別排出量



種類:変換 (千t/年)	合計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	水銀廃棄物	その他産業廃棄物
排出量	8		3	0	0	0	2		2					0	0		1			0
(%)	(100%)		(34.4%)	(1.9%)	(0.5%)	(0.1%)	(29.7%)		(21.8%)					(2.6%)	(1.1%)		(7.8%)			(0.2%)
搬出量	7		1	0	0	0	2		2					0	0		1			0
(%)	(100%)		(16.3%)	(2.4%)	(0.6%)	(0.1%)	(37.9%)		(27.8%)					(3.3%)	(1.4%)		(10.0%)			(0.2%)

図 2-4-14　運輸業の種類別排出量、搬出量



注)＜　＞内の数値は発生量に対する割合を、≪　≫内の数値は排出量に対する割合を示している。

図 2-4-15　運輸業からの排出及び処理状況

６．卸・小売業

卸・小売業からの排出量は 25 千トンとなっており、県全体の排出量の 0.4%を占めている。

排出量を種類別にみると、図 2-4-16 に示すように廃プラスチック類が 11 千トン(43.4%)で最も多く、次いでその他産業廃棄物 3 千トン（12.8%）、廃油 2 千トン(9.7%)、汚泥 2 千トン（7.0%）となっている。

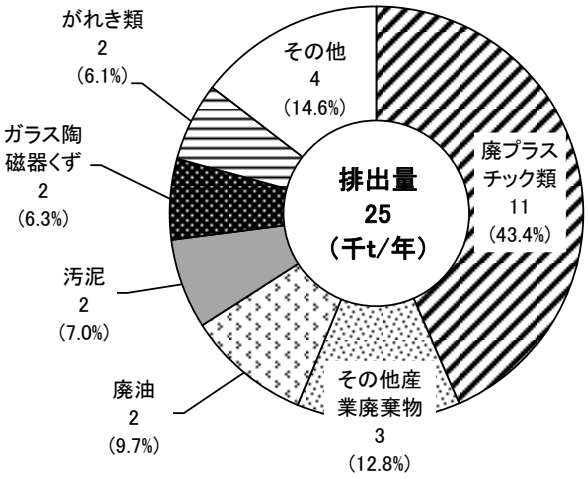
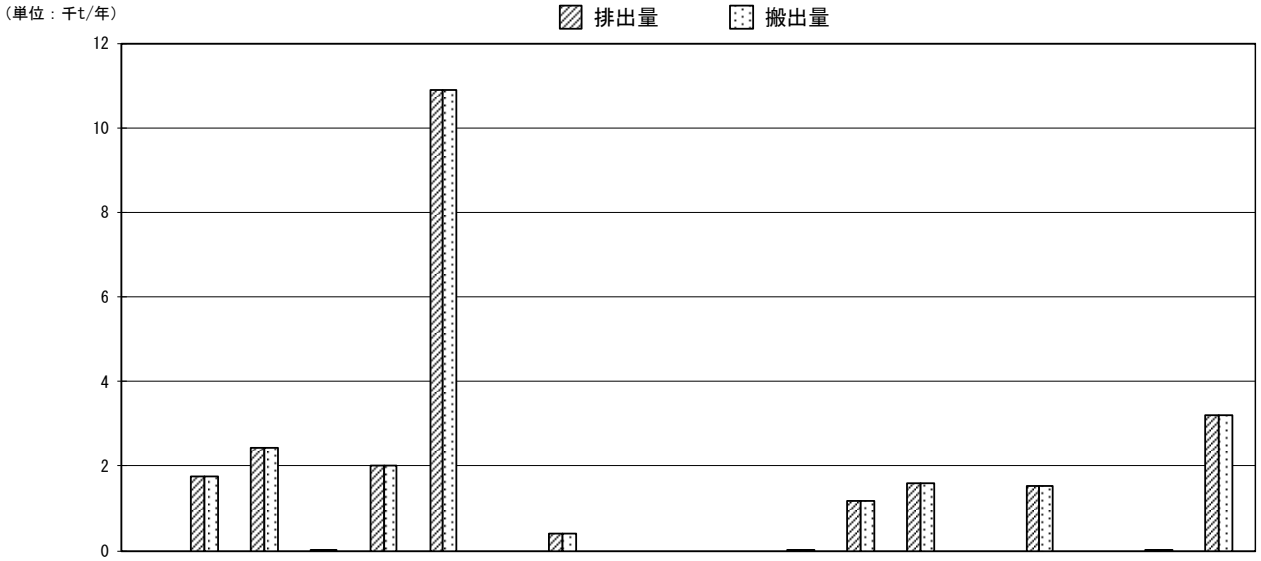
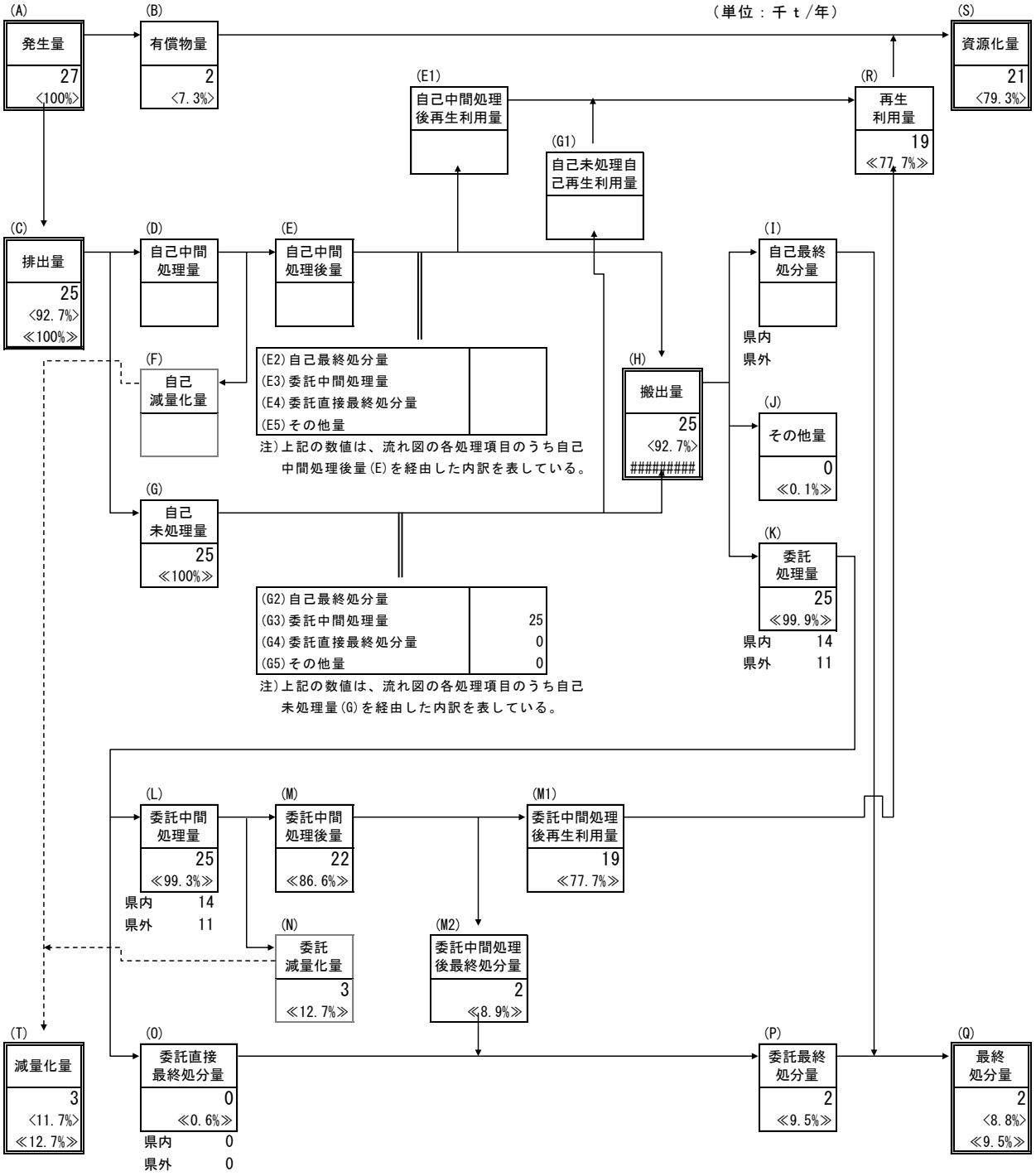


図 2-4-16 卸・小売業の種類別排出量



種類:変換（千t/年）	合計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	水銀廃棄物	その他産業廃棄物
排出量	25		2	2	0	2	11		0				0	1	2		2		0	3
（%）	(100%)		(7.0%)	(9.7%)	(0.1%)	(8.1%)	(43.4%)		(1.6%)				(0.0%)	(4.7%)	(6.3%)		(6.1%)		(0.1%)	(12.8%)
搬出量	25		2	2	0	2	11		0				0	1	2		2		0	3
（%）	(100%)		(7.0%)	(9.7%)	(0.1%)	(8.1%)	(43.4%)		(1.6%)				(0.0%)	(4.7%)	(6.3%)		(6.1%)		(0.1%)	(12.8%)

図 2-4-17　卸・小売業の種類別排出量、搬出量



注)＜ ＞内の数値は発生量に対する割合を、≪ ≫内の数値は排出量に対する割合を示している。

図 2-4-18　卸・小売業からの排出及び処理状況

７．物品賃貸業

物品賃貸業からの排出量は 4.9 千トンとなっており、県全体の排出量の 0.1%を占めている。

排出量を種類別にみると、図 2-4-19 に示すようにがれき類が 4.0 千トン(80.6%)で最も多く、次いでその他産業廃棄物 0.4 千トン(7.1%)となっている。

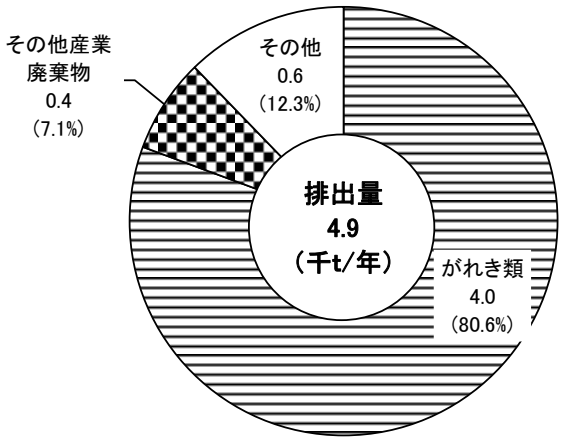
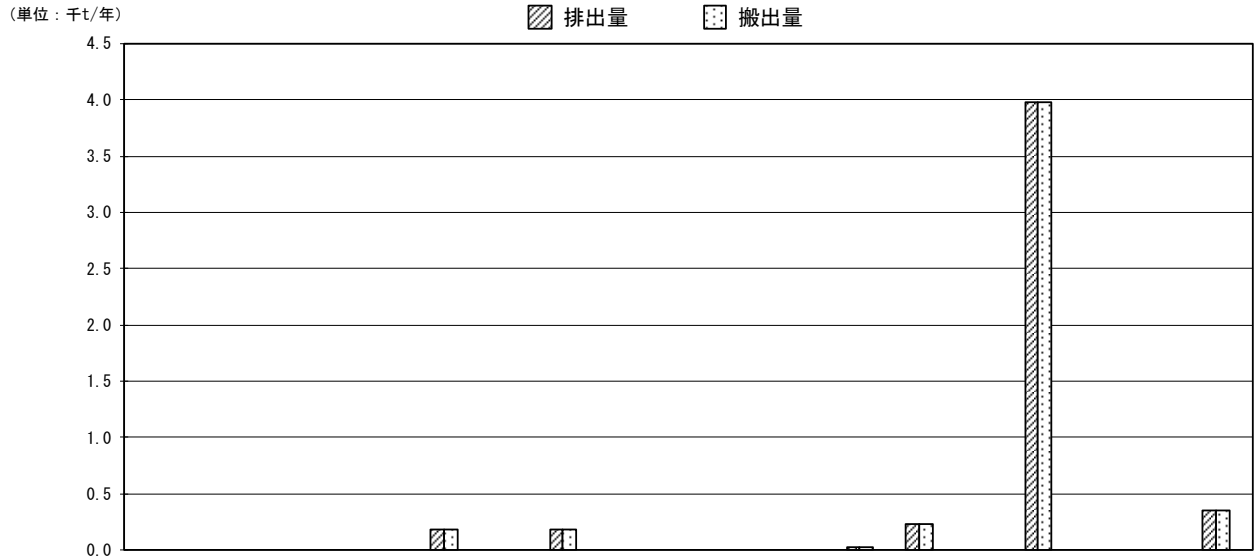
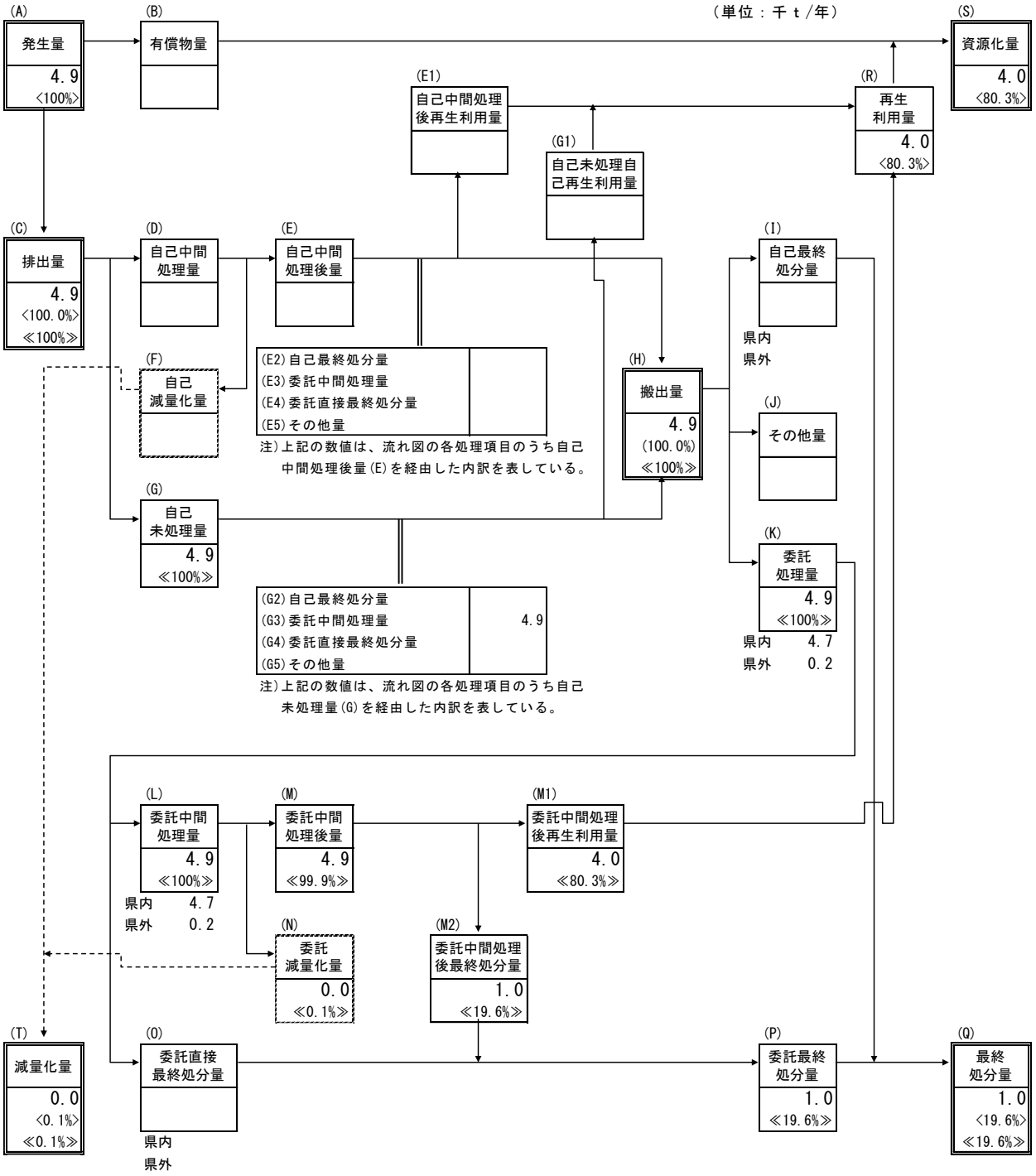


図 2-4-19 物品賃貸業の種類別排出量



種類：変換（千t/年）	合計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	水銀廃棄物	その他産業廃棄物
排出量	4.9						0.2		0.2					0.0	0.2		4.0			0.4
（%）	(100%)						(3.6%)		(3.6%)					(0.4%)	(4.7%)		(80.6%)			(7.1%)
搬出量	4.9						0.2		0.2					0.0	0.2		4.0			0.4
（%）	(100%)						(3.6%)		(3.6%)					(0.4%)	(4.7%)		(80.6%)			(7.1%)

図 2-4-20　物品賃貸業の種類別排出量、搬出量



注)＜ ＞内の数値は発生量に対する割合を、≪ ≫内の数値は排出量に対する割合を示している。

図 2-4-21　物品賃貸業からの排出及び処理状況

８．学術研究・専門サービス業

学術研究・専門サービス業からの排出量は20.4千トンとなっており、県全体の排出量の0.3%を占めている。

排出量を種類別にみると、図2-4-22に示すようにがれき類が17.6千トン(86.4%)で最も多く、次いで汚泥0.6千トン(2.9%)となっている。

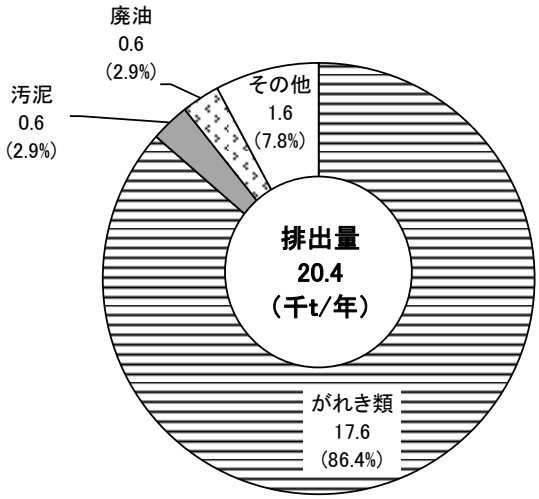
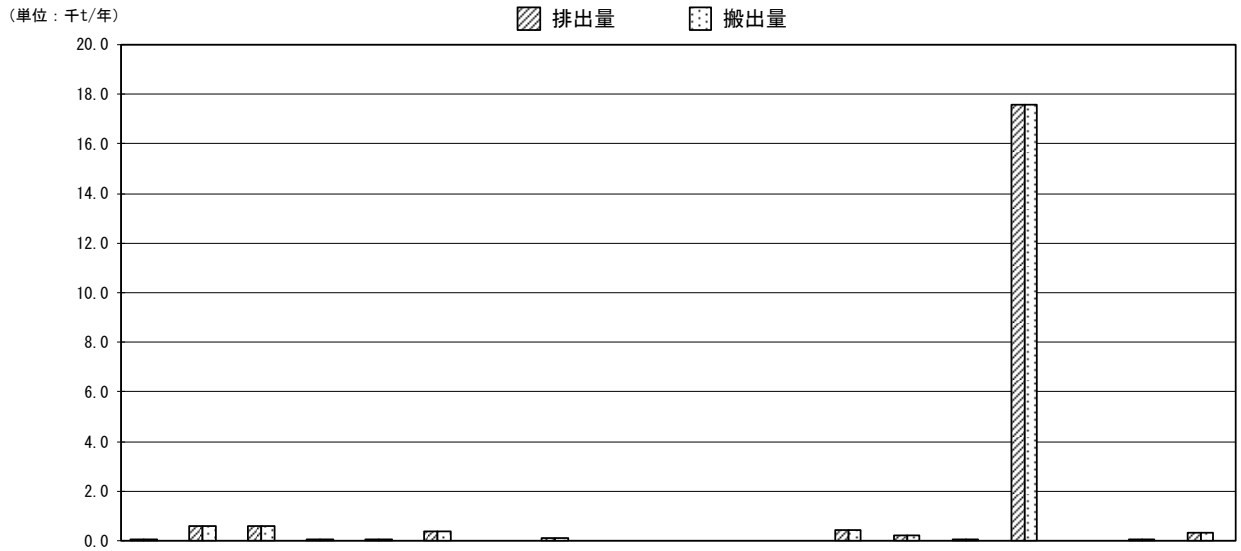
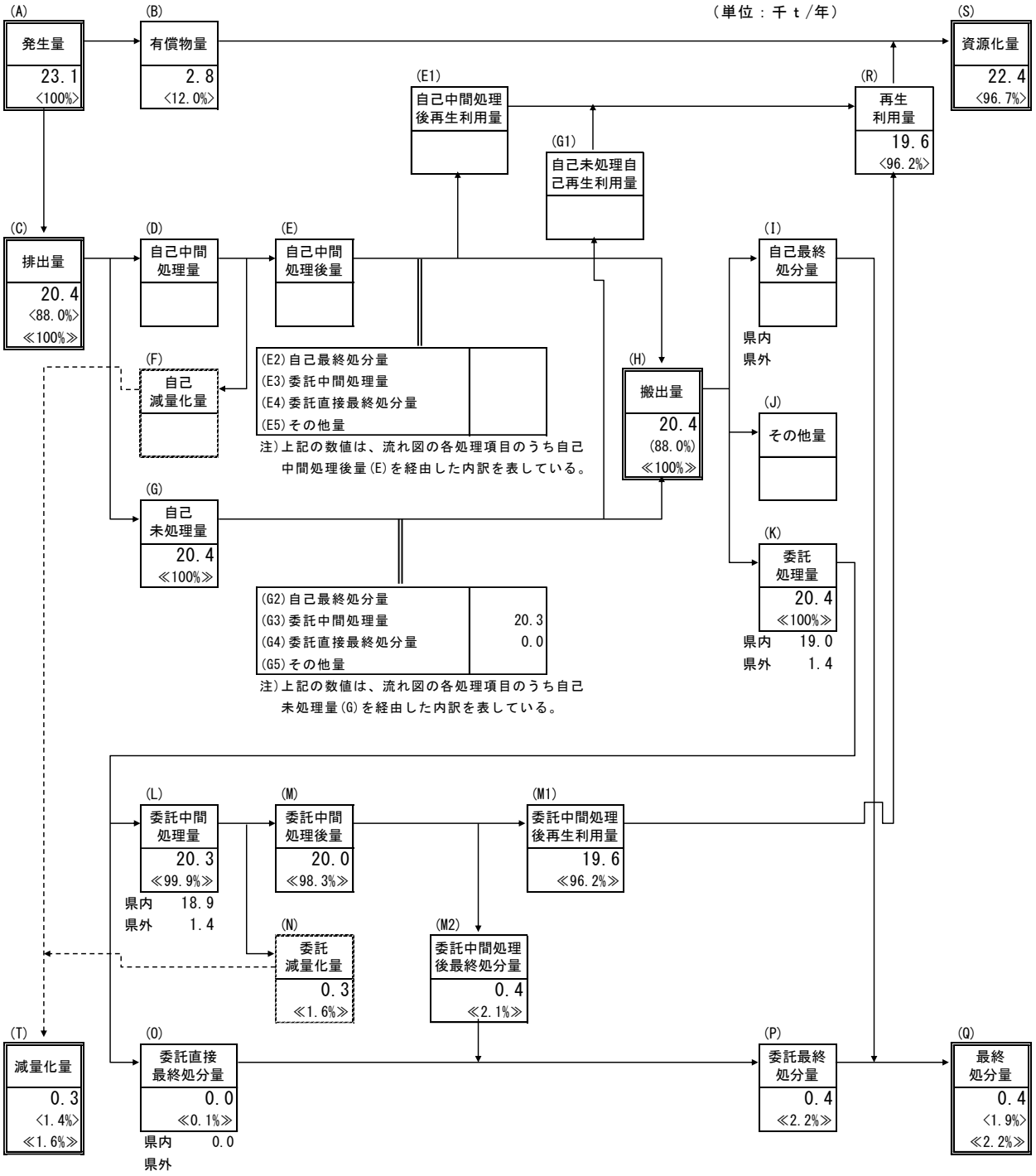


図 2-4-22 学術研究・専門サービス業の種類別排出量



種類:変換 (千t/年)	合計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	水銀廃棄物	その他産業廃棄物
排出量	20.4	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	0.4		0.1					0.4	0.2	0.1	17.6		0.0	0.3
(%)	(100%)	(0.0%)	(2.9%)	(2.9%)	(0.1%)	(0.1%)	(1.9%)		(0.6%)					(2.2%)	(0.9%)	(0.3%)	(86.4%)		(0.1%)	(1.6%)
搬出量	20.4	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	0.4		0.1					0.4	0.2	0.1	17.6		0.0	0.3
(%)	(100%)	(0.0%)	(2.9%)	(2.9%)	(0.1%)	(0.1%)	(1.9%)		(0.6%)					(2.2%)	(0.9%)	(0.3%)	(86.4%)		(0.1%)	(1.6%)

図 2-4-23　学術研究・専門サービス業の種類別排出量、搬出量



注)＜ ＞内の数値は発生量に対する割合を、≪ ≫内の数値は排出量に対する割合を示している。

図 2-4-24　学術研究・専門からの排出及び処理状況

９．宿泊業・飲食業

宿泊業・飲食業からの排出量は 9.3 千トンとなっており、県全体の排出量の 0.1%を占めている。

排出量を種類別にみると、図 2-4-25 に示すようにがれき類が 8.3 千トン(88.6%)で最も多く、次いで汚泥 0.8 千トン(8.7%)となっている。

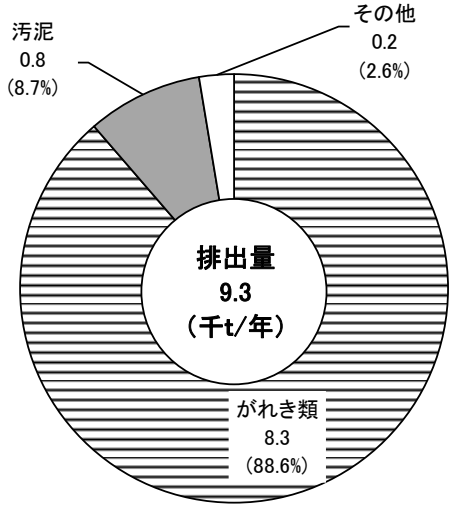
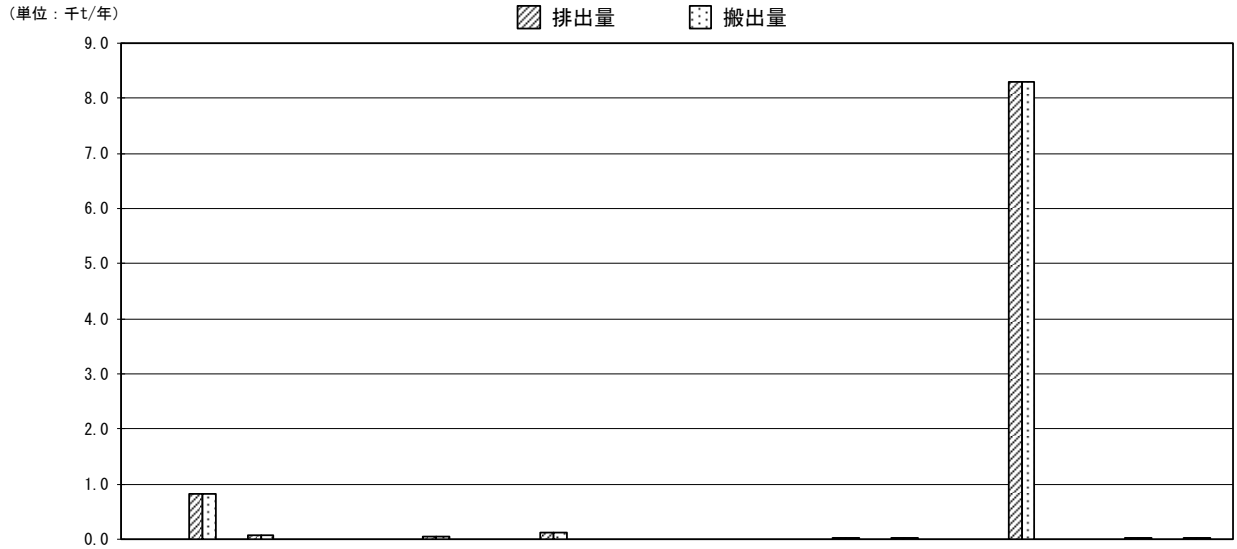
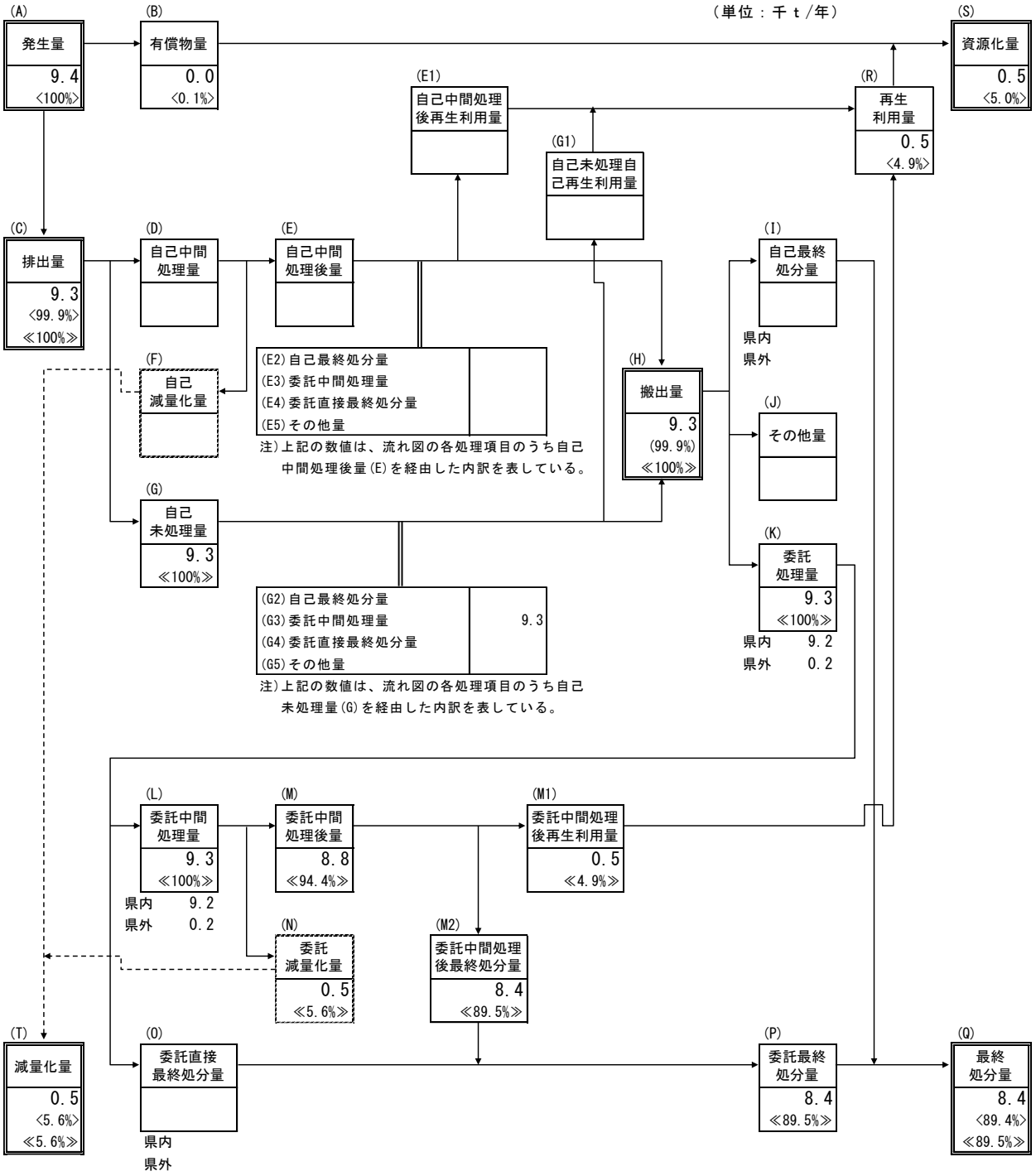


図 2-4-25 宿泊業・飲食業の種類別排出量



種類:変換 (千t/年)	合計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	水銀廃棄物	その他産業廃棄物
排出量	9.3		0.8	0.1			0.0		0.1					0.0	0.0		8.3		0.0	0.0
(%)	(100%)		(8.7%)	(0.8%)			(0.5%)		(1.2%)					(0.0%)	(0.0%)		(88.6%)		(0.0%)	(0.1%)
搬出量	9.3		0.8	0.1			0.0		0.1					0.0	0.0		8.3		0.0	0.0
(%)	(100%)		(8.7%)	(0.8%)			(0.5%)		(1.2%)					(0.0%)	(0.0%)		(88.6%)		(0.0%)	(0.1%)

図 2-4-26　宿泊業・飲食業の種類別排出量、搬出量



注)＜ ＞内の数値は発生量に対する割合を、≪ ≫内の数値は排出量に対する割合を示している。

図 2-4-27　宿泊業・飲食業からの排出及び処理状況

10. 生活関連サービス業

生活関連サービス業からの排出量は 6.1 千トンとなっており、県全体の排出量の 0.1%を占めている。

排出量を種類別にみると、図 2-4-28 に示すようにがれき類が 3.0 千トン(48.9%)で最も多く、次いで廃プラスチック類 1.3 千トン(20.7%)、ガラスくず等 0.8 千トン(13.3%)、汚泥 0.4 千トン(6.4%)となっている。

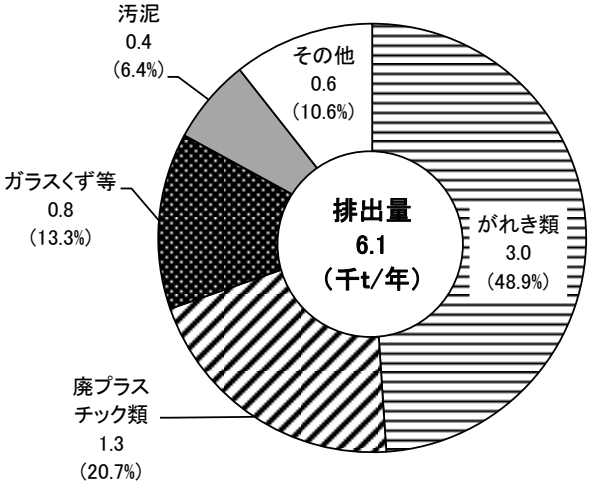
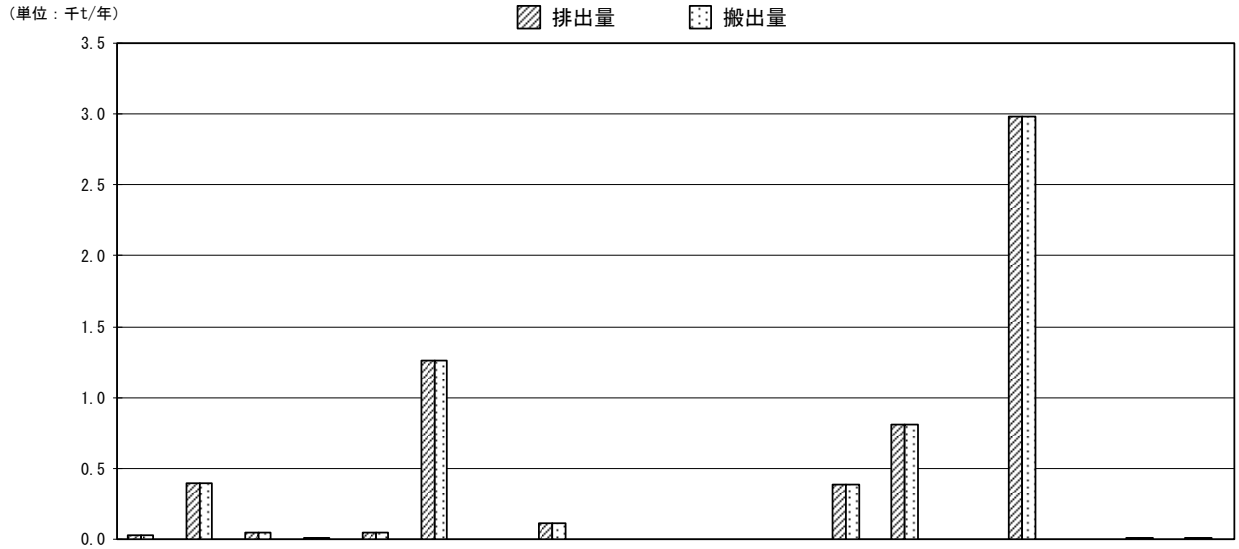
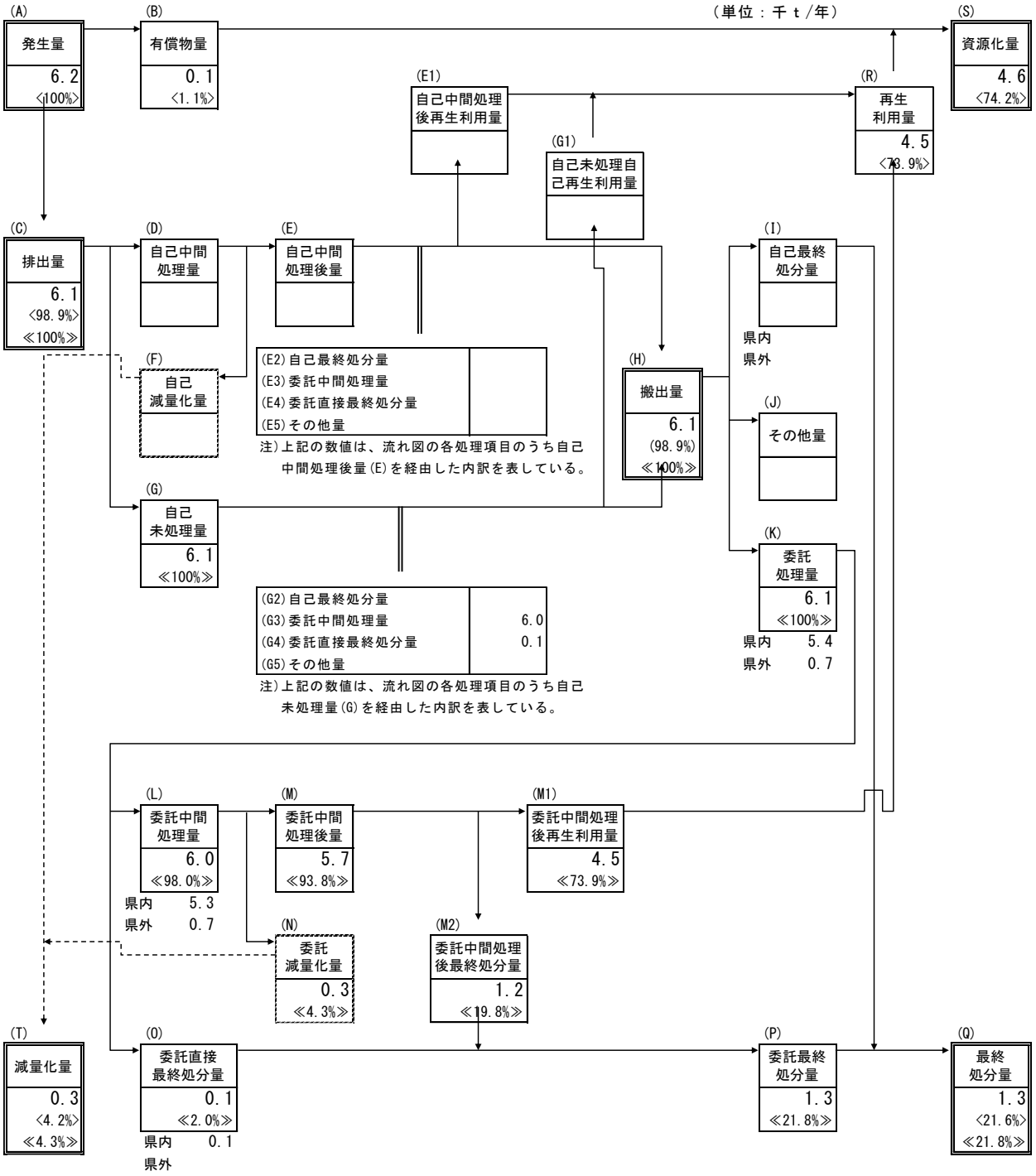


図 2-4-28 生活関連サービス業の種類別排出量



種類:変換 (千t/年)	合計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	水銀廃棄物	その他産業廃棄物
排出量	6.1	0.0	0.4	0.0	0.0	0.1	1.3		0.1					0.4	0.8		3.0		0.0	0.0
(%)	(100%)	(0.5%)	(6.4%)	(0.8%)	(0.1%)	(0.8%)	(20.7%)		(1.9%)					(6.3%)	(13.3%)		(48.9%)		(0.1%)	(0.1%)
搬出量	6.1	0.0	0.4	0.0	0.0	0.1	1.3		0.1					0.4	0.8		3.0		0.0	0.0
(%)	(100%)	(0.5%)	(6.4%)	(0.8%)	(0.1%)	(0.8%)	(20.7%)		(1.9%)					(6.3%)	(13.3%)		(48.9%)		(0.1%)	(0.1%)

図 2-4-29　生活関連サービス業の種類別排出量、搬出量



注)＜ ＞内の数値は発生量に対する割合を、≪ ≫内の数値は排出量に対する割合を示している。

図 2-4-30　生活関連サービス業からの排出及び処理状況

11. 教育、学習支援業

教育、学習支援業からの排出量は 6.1 千トンとなっており、県全体の排出量の 0.1%を占めている。

排出量を種類別にみると、図 2-4-31 に示すように廃プラスチック類が 3.6 千トン(59.2%)で最も多く、次いでその他産業廃棄物 2.1 千トン(34.0%)となっている。

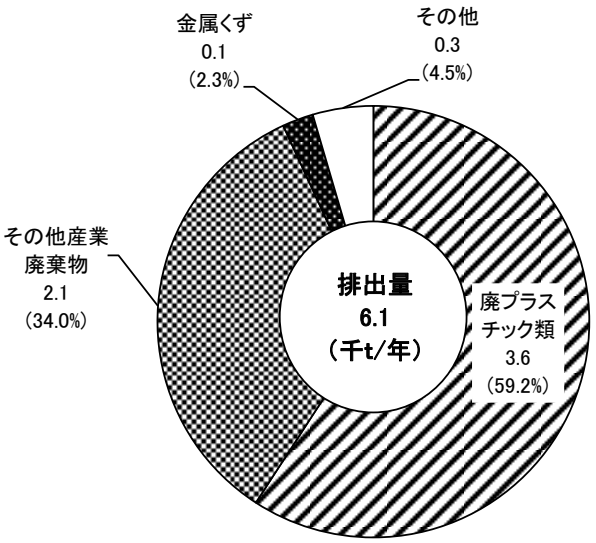
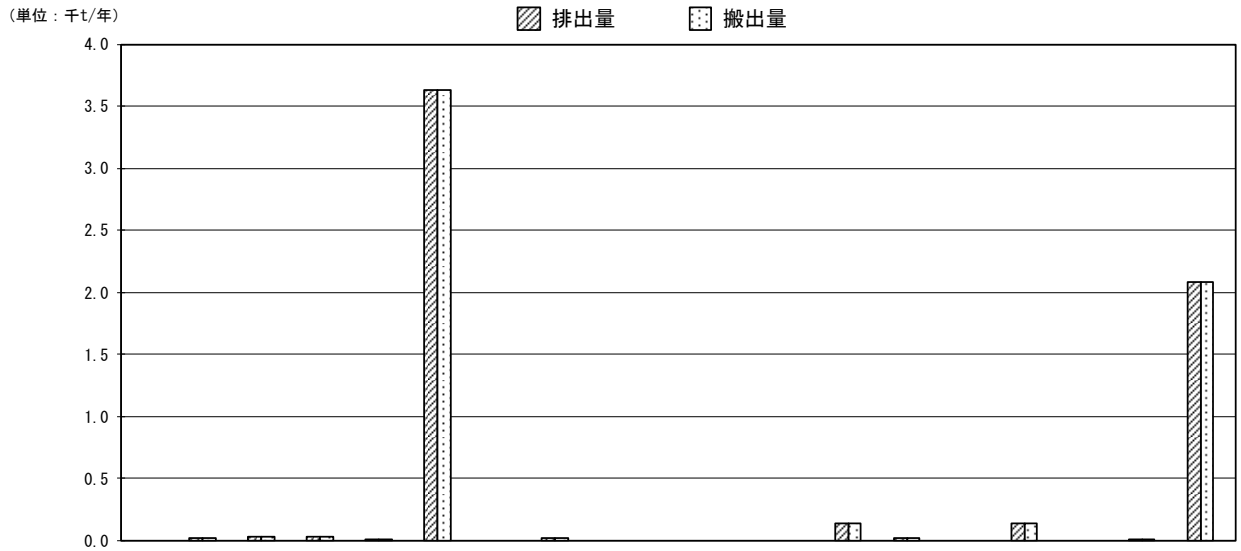
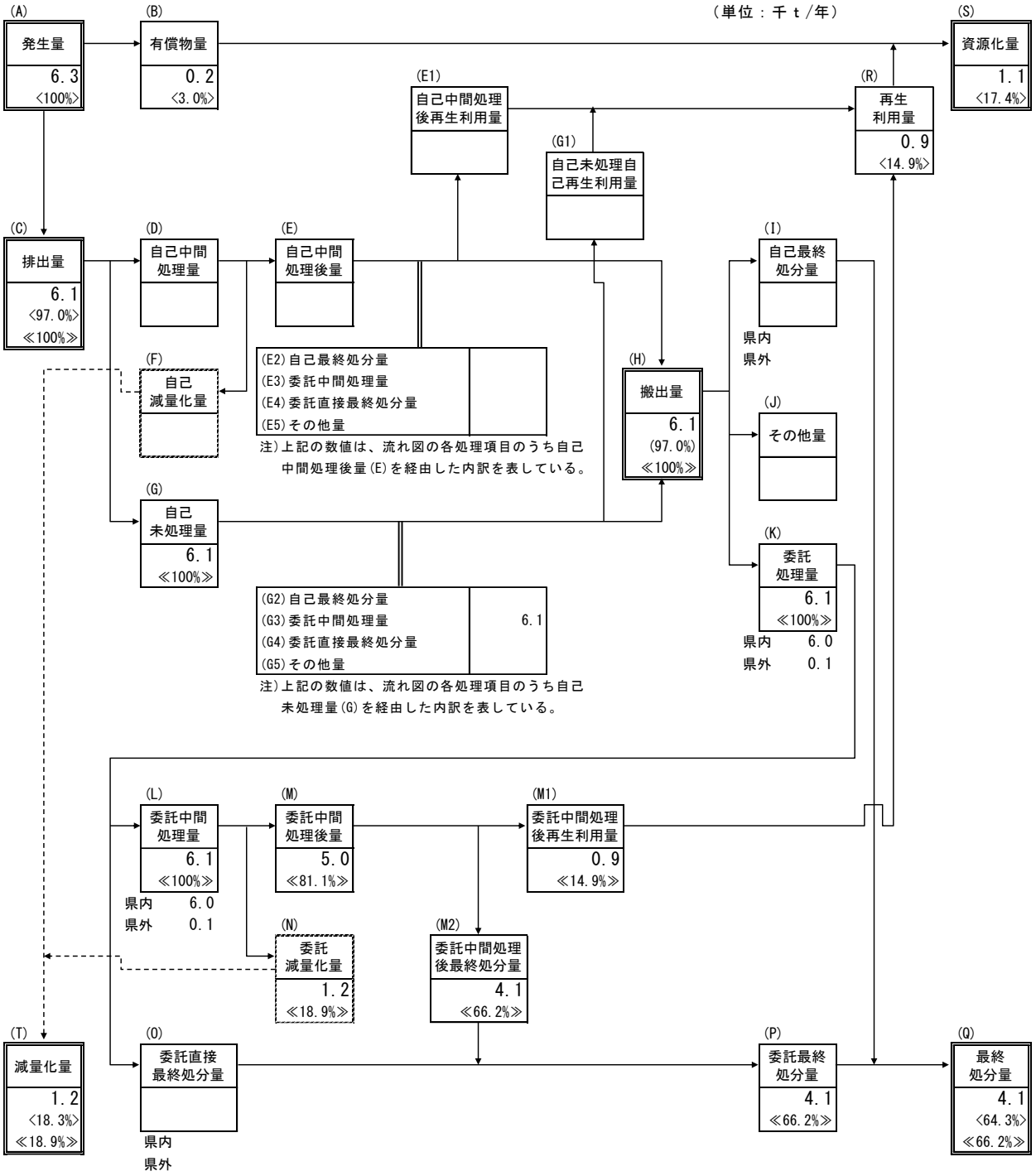


図 2-4-31 教育、学習支援業の種類別排出量



種類:変換 (千t/年)	合計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	水銀廃棄物	その他産業廃棄物
排出量 (%)	6.1 (100%)		0.0 (0.4%)	0.0 (0.5%)	0.0 (0.4%)	0.0 (0.1%)	3.6 (59.2%)		0.0 (0.4%)					0.1 (2.3%)	0.0 (0.3%)		0.1 (2.2%)		0.0 (0.2%)	2.1 (34.0%)
搬出量 (%)	6.1 (100%)		0.0 (0.4%)	0.0 (0.5%)	0.0 (0.4%)	0.0 (0.1%)	3.6 (59.2%)		0.0 (0.4%)					0.1 (2.3%)	0.0 (0.3%)		0.1 (2.2%)		0.0 (0.2%)	2.1 (34.0%)

図 2-4-32　教育、学習支援業の種類別排出量、搬出量



注)＜ ＞内の数値は発生量に対する割合を、≪ ≫内の数値は排出量に対する割合を示している。

図 2-4-33　教育、学習支援業からの排出及び処理状況

12. 医療・福祉

医療・福祉からの排出量は 23.8 千トンとなっており、県全体の排出量の 0.4%を占めている。

排出量を種類別にみると、図 2-4-34 に示すようにその他産業廃棄物が 18.8 千トン(78.9%)で最も多く、次いで廃プラスチック類 4.5 千トン(19.0%)となっている。

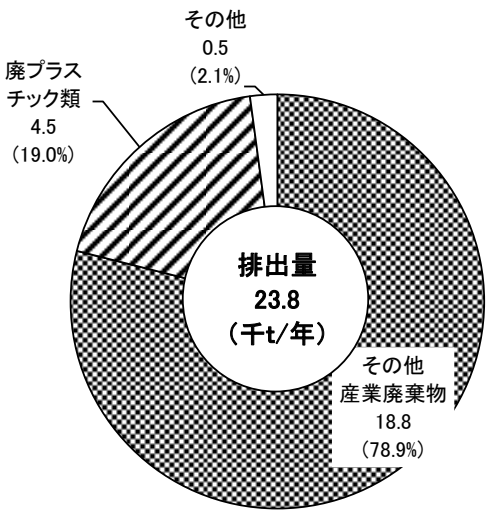
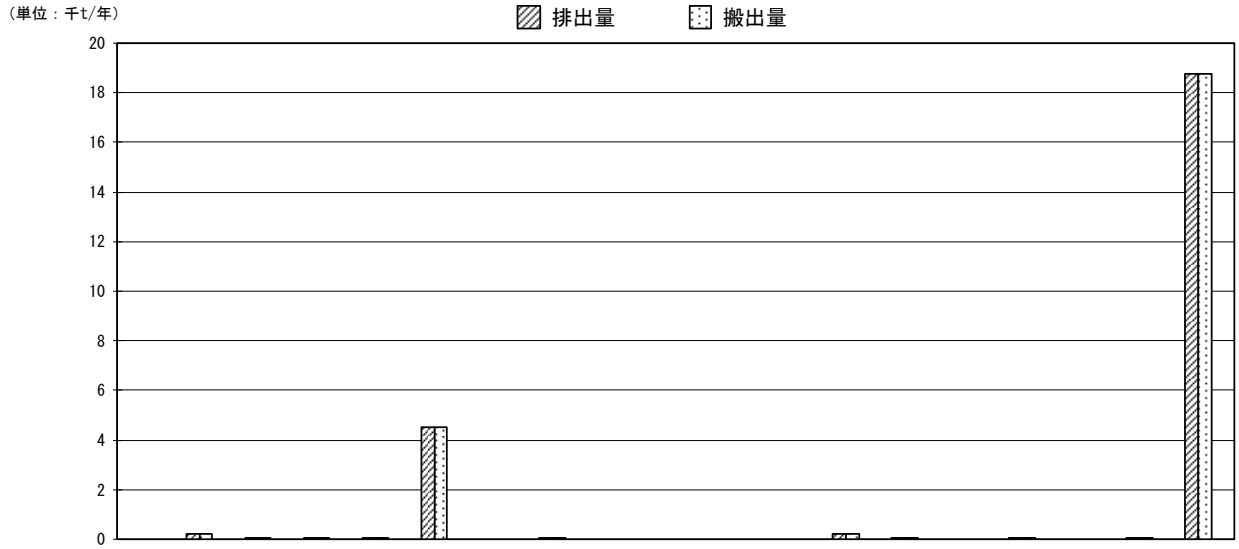
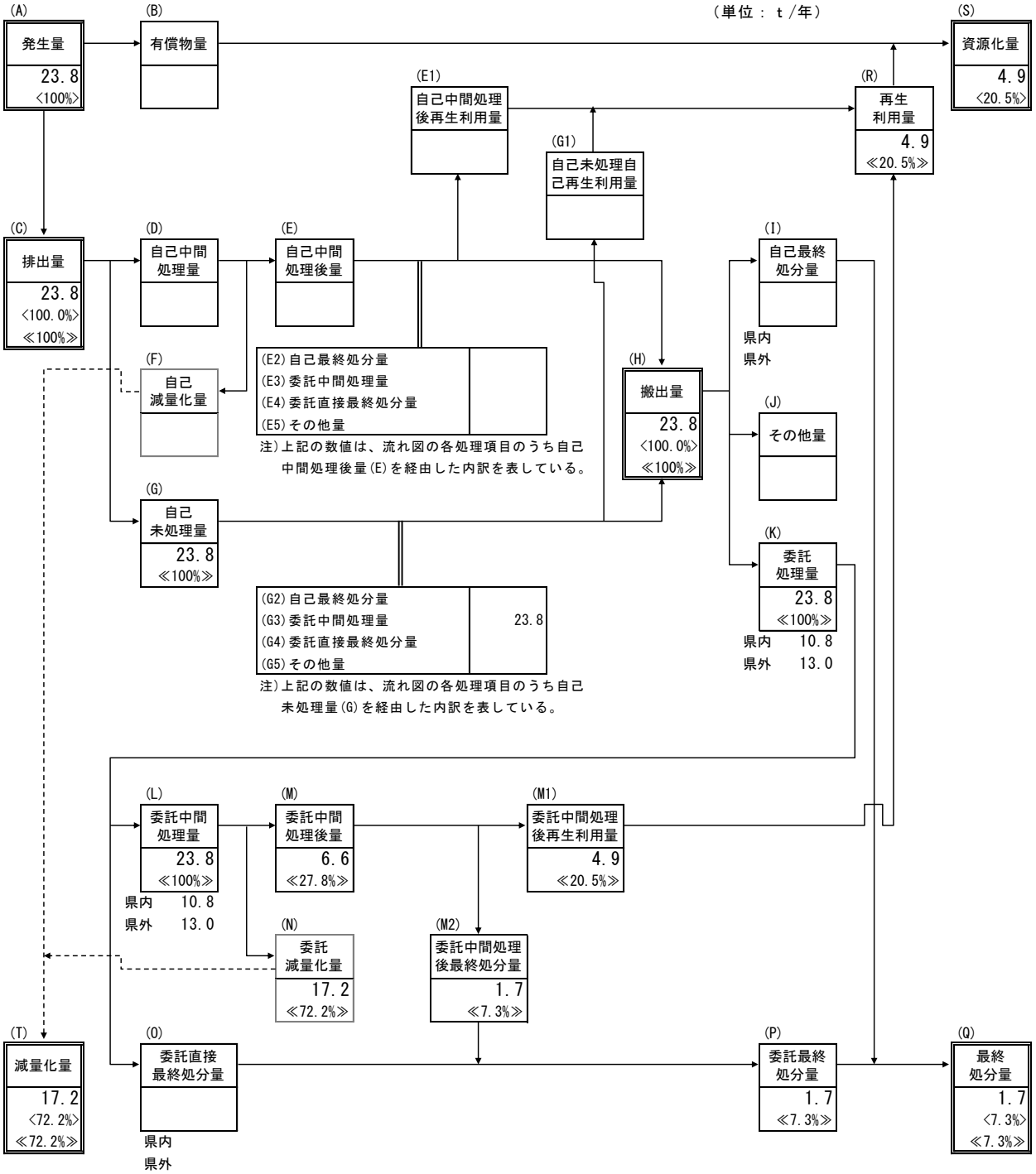


図 2-4-34 医療・福祉の種類別排出量



種類:変換 (千t/年)	合計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	水銀廃棄物	その他産業廃棄物
排出量 (%)	23.8 (100%)		0.2 (0.9%)	0.0 (0.1%)	0.0 (0.1%)	0.0 (0.0%)	4.5 (19.0%)		0.0 (0.0%)					0.2 (0.9%)	0.0 (0.1%)		0.0 (0.0%)		0.0 (0.1%)	18.8 (78.9%)
搬出量 (%)	23.8 (100%)		0.2 (0.9%)	0.0 (0.1%)	0.0 (0.1%)	0.0 (0.0%)	4.5 (19.0%)		0.0 (0.0%)					0.2 (0.9%)	0.0 (0.1%)		0.0 (0.0%)		0.0 (0.1%)	18.8 (78.9%)

図 2-4-35　医療・福祉の種類別排出量、搬出量



注)＜ ＞内の数値は発生量に対する割合を、≪ ≫内の数値は排出量に対する割合を示している。

図 2-4-36　医療・福祉からの排出及び処理状況

13. 複合サービス事業

複合サービス事業からの排出量は 0.17 千トンとなっている。

排出量を種類別にみると、図 2-4-37 に示すように廃プラスチック類が 0.07 千トン(39.4%)で最も多く、次いで金属くず 0.03 千トン(18.3%)となっている。

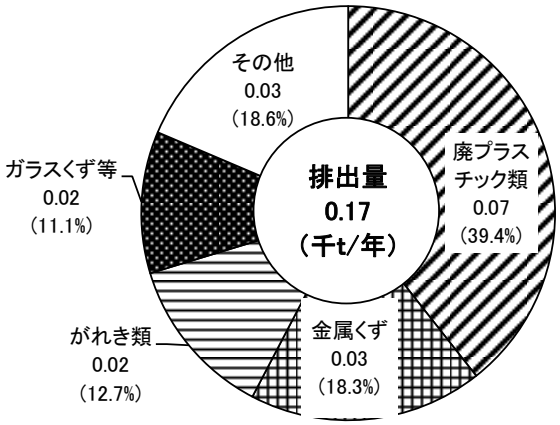
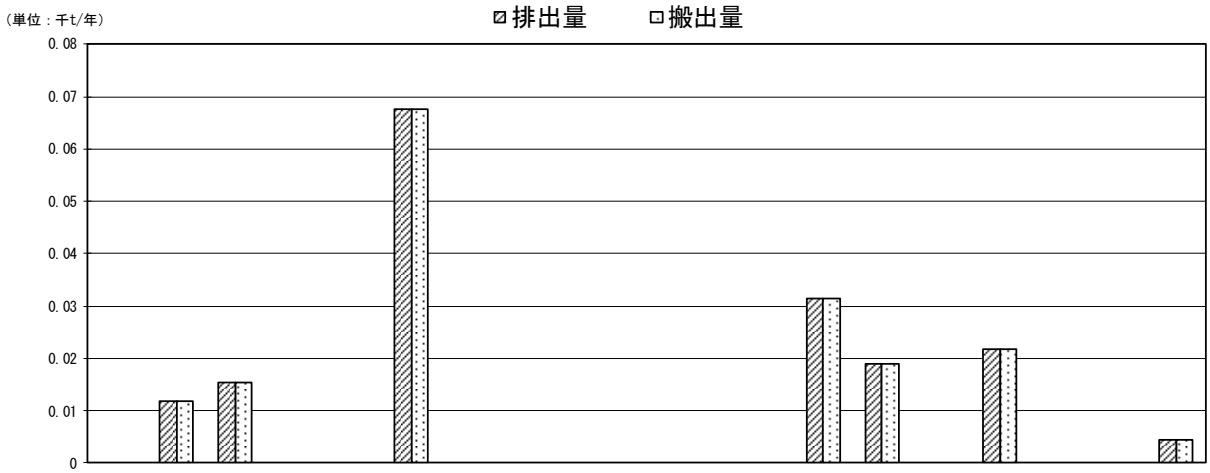
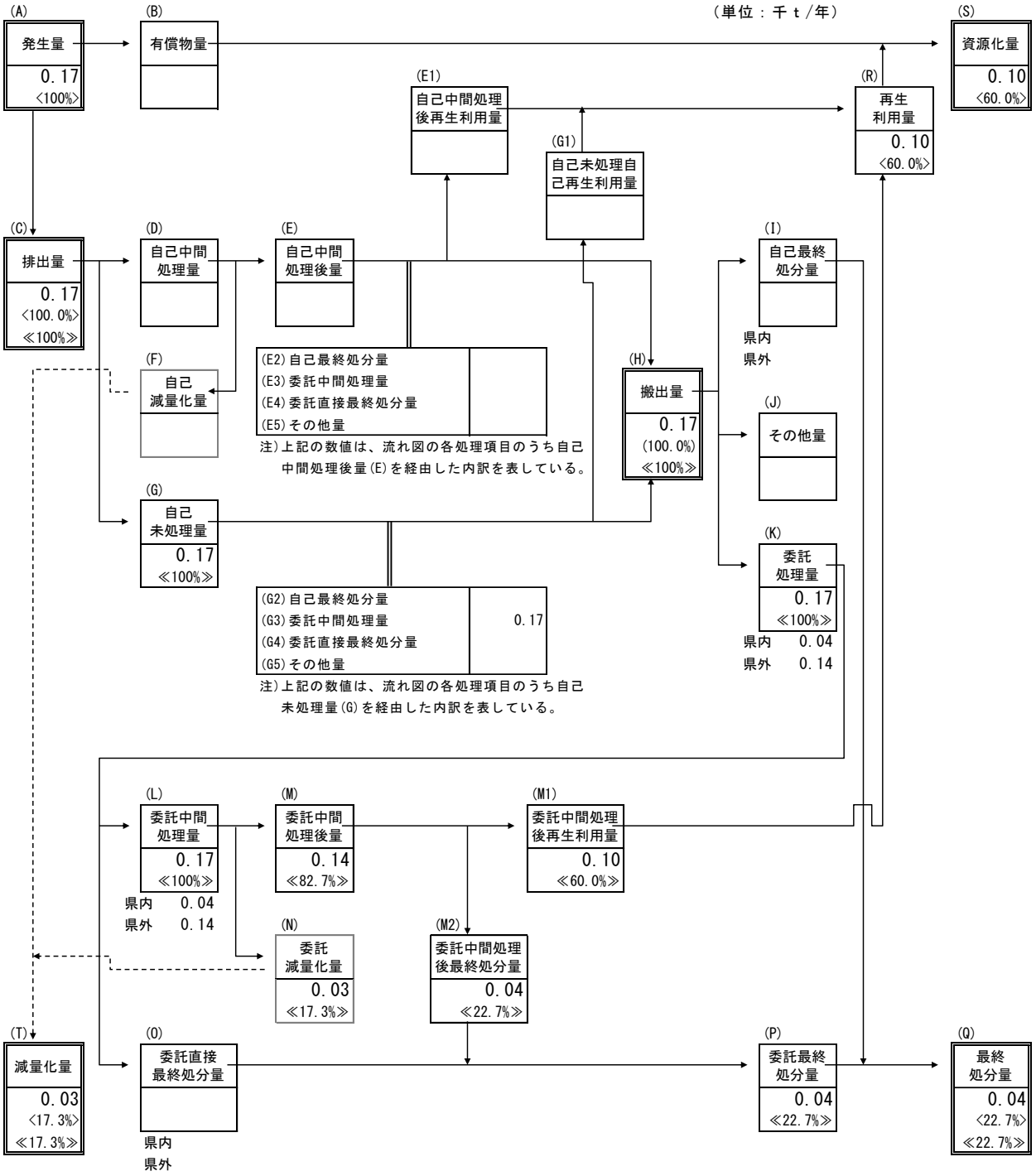


図 2-4-37 複合サービス事業の種類別排出量



種類：変換 (千t/年)	合計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	水銀使用製品	その他産業廃棄物
排出量	0.17		0.01	0.02			0.07							0.03	0.02		0.02			0.00
(%)	(100%)		(7.0%)	(9.0%)			(39.4%)							(18.3%)	(11.1%)		(12.7%)			(2.6%)
搬出量	0.17		0.01	0.02			0.07							0.03	0.02		0.02			0.00
(%)	(100%)		(7.0%)	(9.0%)			(39.4%)							(18.3%)	(11.1%)		(12.7%)			(2.6%)

図 2-4-38　複合サービス事業の種類別排出量、搬出量



注)＜ ＞内の数値は発生量に対する割合を、≪ ≫内の数値は排出量に対する割合を示している。

図 2-4-39　複合サービス事業からの排出及び処理状況

14. サービス業

サービス業からの排出量は 189 千トンとなっており、県全体の排出量の 2.9%を占めている。

排出量を種類別にみると、図 2-4-40 に示すように汚泥が 177 千トン(93.5%)で最も多く、次いで廃酸 7.7 千トン(4.1%)となっている。

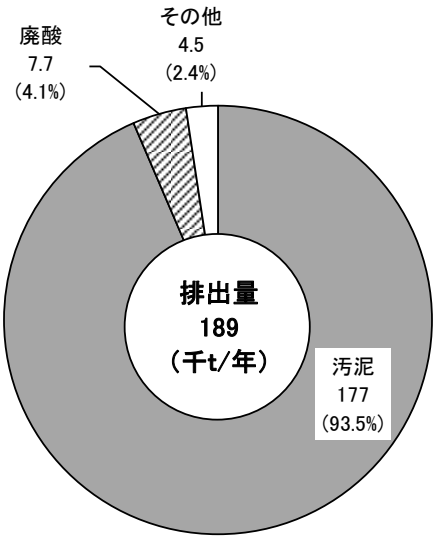
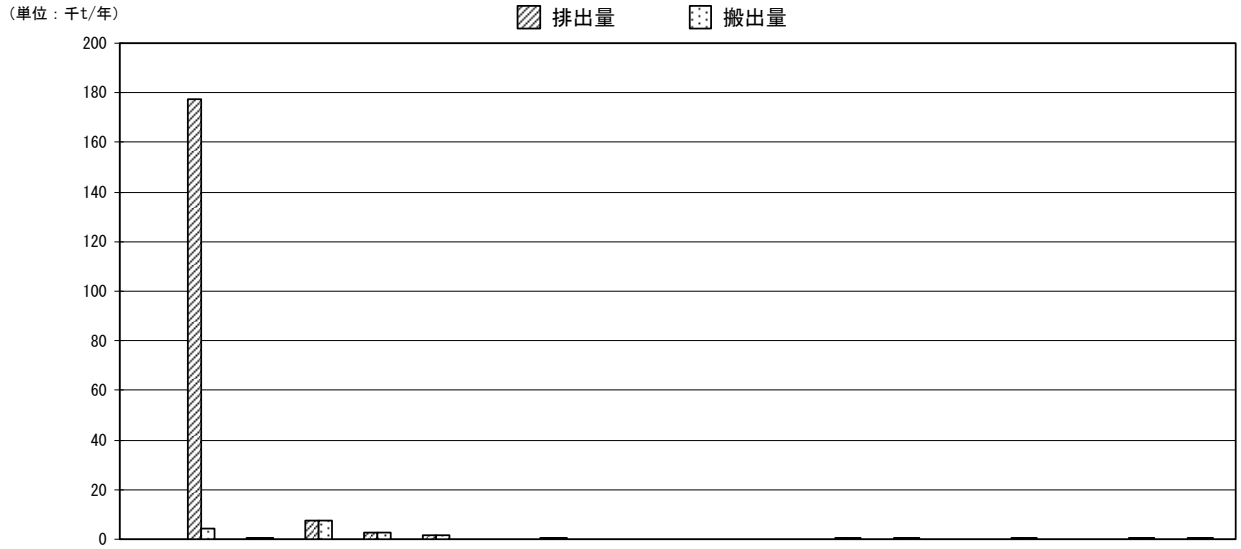
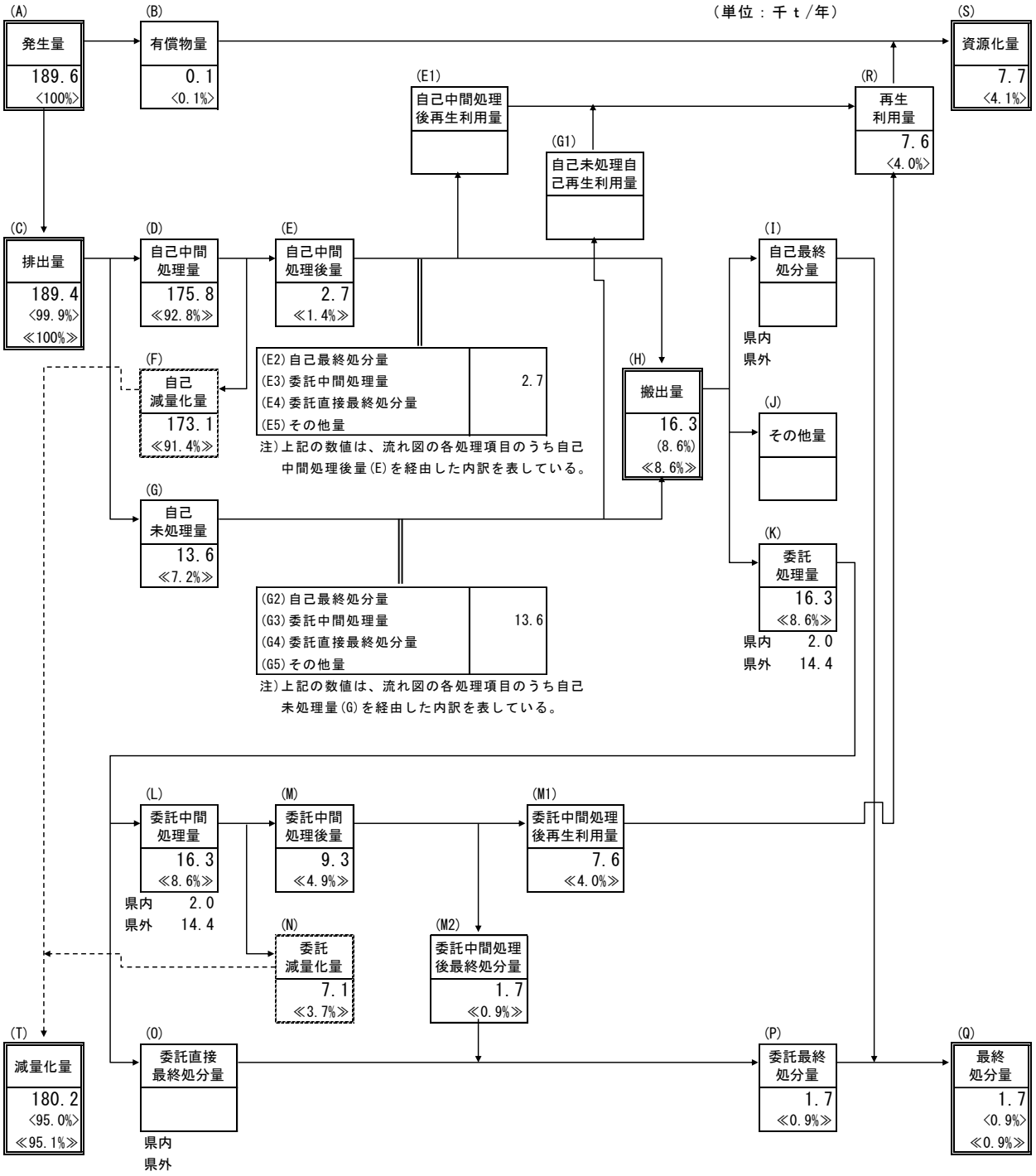


図 2-4-40 サービス業の種類別排出量



種類:変換 (千t/年)	合計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	水銀廃棄物	その他産業廃棄物
排出量	189		177	0.1	7.7	2.8	1.3		0.1					0.0	0.0		0.1		0.0	0.0
(%)	(100%)		(93.5%)	(0.0%)	(4.1%)	(1.5%)	(0.7%)		(0.1%)					(0.0%)	(0.0%)		(0.1%)		(0.0%)	(0.0%)
搬出量	16		4.1	0.1	7.7	2.8	1.3		0.1					0.0	0.0		0.1		0.0	0.0
(%)	(100%)		(25.2%)	(0.5%)	(47.1%)	(17.1%)	(8.2%)		(0.8%)					(0.2%)	(0.2%)		(0.7%)		(0.0%)	(0.1%)

図 2-4-41　サービス業の種類別排出量、搬出量



注)＜ ＞内の数値は発生量に対する割合を、≪ ≫内の数値は排出量に対する割合を示している。

図 2-4-42　サービス業からの排出及び処理状況